

伍 枇

NIIGATA UNIVERSITY OF HEALTH AND WELFARE
ALUMNI BULLETIN
G O T O H

巻頭言

「新潟医療福祉大学を卒業する皆さんへ」

学長 高橋 榮明

同窓会長挨拶

同窓会長 齊藤 公二

お祝い ～学科長メッセージ～

同窓会設立5周年記念交流会報告

平成21年度学科近況報告

在学生による先輩訪問日記

新卒業生メッセージ

平成21年度大学近況

学友会だより

新同窓会役員紹介

卒業生の就職状況

クラブ活動報告

巻頭言

新潟医療福祉大学を卒業する皆さんへ

新潟医療福祉大学 学長 高橋 榮明



平成22年3月に卒業する皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは、平成18年4月に入学し、本学で4年間学びました。開学以来の5学科と平成17年度に設置された健康スポーツ学科、平成18年に開設され、今年初めて卒業生を送り出す看護学科、7学科の皆さんが卒業します。新潟医療福祉大学を卒業して社会の出発点に立った皆さんにお祝いの言葉を述べたいと思います。

皆さんは4年間、この新潟医療福祉大学に在学し、本学のカラーを身に付け、伝統を引き継いできました。私は次の3つをお祝いとして述べます。

第1は学内での「挨拶」です。私がいつも申し上げているように、「挨拶には魔法の力」があります。皆さん全員が卒業後には、今まで以上に人と接する機会が多くなります。コミュニケーションの第一歩は挨拶することです。これは最初の卒業生以来、輝かしい伝統となり、外部からの訪問者は皆好印象を持って帰られます。新しい職場で皆さんの方から、積極的に挨拶して、コミュニケーションを取って頂きたいと思います。

第2に、本学で「連携」、チームワークの重要性を学んだことです。超高齢社会になった日本では、保健医療福祉分野で、複数の専門職での対応を必要とすることが多くあります。本学では連携教育に力を入れ、皆さんが入学した時には基礎ゼミⅡ、4年次に総合ゼミを経験しました。文部科学省はその実績を評価して、平成21年度には「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」というGP (Good Practice、大学での優れた取組みサポートするシステム)を、本学が代表校で獲得できました。このことは、皆さんの実績ですから大きな誇りにして頂きたい。

第3には、「感謝」の気持ちです。卒業生の皆さんは家庭でも職場でも必ず人間関係を大切に、相手に対する感謝の気持ちを常に持ち続けることです。人間との関係で、相手の長所を見つけ評価し、感謝の気持ちを持ち、それを表すということが大切です。

皆さんはこのよう、自然に身に付けて頂いた挨拶・連携・感謝との3つの伝統を、さらに輝かせることを期待して、皆さんの卒業を心からお祝いします。

私もこの3月に学長職から卒業し、皆さんと同じ教員卒業生となります。今後、皆さんは社会に出て活躍することになりますが、どこかで会うことがあれば声を掛けてください。皆さんの名前、学科、卒業年次と近況を私に教えて頂ければ、私の最高の喜びです。皆さんの大きな飛躍を期待しています。卒業おめでとう。

同窓会長挨拶

同窓会長 齊藤 公二



第6期卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、新潟医療福祉大学同窓会の正会員となりましたことを、心より喜び申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

そして、現場にて、すでにご活躍の会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。昨年は、本同窓会5周年記念交流会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。久しぶりに会う友人や先生との時間は、本当に素晴らしいものになったことと思います。仕事等でご参加いただけなかった会員の皆様は、本伍桃の同窓会設立5周年記念交流会報告ページ、また、同窓会ホームページにて、会の模様をご確認いただければと思います。今後もこのような交流の場をできる限り増やしていければと考えております。

さて、昨年度の総会で可決された議事の中に、「卒業生管理システム」があります。これは何か、簡単に説明させていただきますと、同窓会が保有している卒業生の情報と、大学が保有している卒業生の情報を相互に共有・活用することができるシステムのことです。保有する卒業生情報の正確性が増すことはもちろんですが、例えば、在学生が興味を持った職場に卒業生がいた場合、その卒業生にコンタクトをとることが可能になるということです（もちろん卒業生の上承を得た後）。

これまでも申し上げてきましたとおり、遠隔地でのコミュニケーションを図ることが、全国各地にいる会員の皆様を繋ぐためにはとても重要です。また、そのツールを整備することが私たち同窓会役員の責務にもなってきます。その一歩が今回こうして踏み出されました。先輩がいることに安心感を持ち、後輩がいることで力が入る。それぞれのメリットをこのツールを通して生み出していくことができれば幸いです。これから詳しい活用方法、事例等を随時お知らせできればと考えております。

また、本号から、卒業生の職場に在学生が訪問をするコーナーを設けました。興味のある職場にいる卒業生に直接話を聞くチャンスはまれですし、卒業生管理システム同様、お互いにとってとてもよい経験になるはずです。

このように、少しずつではありますが、これからも会員相互のメリットを共有するお手伝いができればと考えております。「もっとこんなことをしてほしい!」そんな会員の皆様からの声をお待ちしております。

6期生の皆さんへ学科長メッセージ



理学療法学科長
大西 秀明

理学療法学科卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。国家試験も終了し、後は結果を待つばかりとなりました。4年間、様々なことがあったかと思いますが、この4月からは理学療法士として様々な病院・施設で活躍されることと思います。社会に出ますと、いろいろな試練が待ち受けています。予期せぬ出来事もあります。そのような場合、環境や他人を批判することは非常に簡単ですが、批判してもまず改善することはありません。どのように改善しないといけないのか、常に建設的な意見を持ち、自ら積極的に行動を起こしてください。どのような環境においても、発展して行くことができるか否かは皆さん次第です。自由な発想とともに、自ら能動的に行動を起こし、楽しく仕事をされることを期待しています。今後の皆さんの健康と益々のご活躍を祈願致します。



健康栄養学科長
斎藤 トシ子

健康栄養学科6期生の皆様、卒業おめでとうございます。皆様は、管理栄養士・栄養士という専門職(プロフェッショナル;専門的な学習をした上で公的な資格を取得した人)になるわけですが、公的な資格を有するというにはどのような意味があるのかをご存知ですか?『公的な資格を有する』には『法と倫理を遵守するということが社会に誓約する』という意味があります。さらに、法と倫理を遵守することの中には、専門知識や技術を不正に活用してはいけないこと、最新の科学的エビデンスに基づいた真実を言うことが含まれています。逆に言う『努力を怠ること』=『倫理違反』なのです。一方、専門職の条件には、社会の存続と発展に寄与すること、人格的価値を備えていることが掲げられています。皆さんはようやく専門職としてのスタートラインに立ったところですので、生涯「学習」を忘れずにプロフェッショナルとしての責務を果たしていくことを期待しています。



作業療法学科長
大山 峰生

作業療法学科6期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日、大学卒業そして就職という一つの節目に立ち、皆さんはきっと喜びと希望で溢れていることと思います。“希望”という言葉は、素晴らしい意味を持ちます。また、希望は己を動かす力となり、未来に向けて物事を達成する源にもなります。しかしながら、希望ばかりで自らの行動が伴わなければ、希望という素晴らしい言葉は、逆に低次元の欲求という意味にもとらえられてしまうことがあります。私もこのことは、よく経験し、多くのことを反省します。これから卒業生の皆さんは、今日という卒業式の日を境に、社会に出て慣れない環境での生活が始まります。荒波にもまれることもあろうかと思えます。しかし、これを機に自分を見つめ直し、そして努力し、是非とも自らの手で希望を達成されますことを心から期待しております。共に頑張りましょう。



健康スポーツ学科長
和唐 正勝

健康スポーツ学科2期生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは住みなれた大学から巣立ちして、これからは社会の場で活躍することになりました。その社会が多様化し変化が激しい時代にあっては、とするとこれまでの考え方や方策が通用しにくくなります。それに対処していくためには、広い視野を持ち、新しい状況を正しく把握し、その理解に基づいて自らのなすべきことを的確に判断し選択し行動する力が求められます。大学で身につけた教養、専門的な知識や技能、そして自主的に考える力などを活かして、社会の多様化や変化に柔軟に対応していくとともに、大学生活で得た学びの仲間との絆を大切にしながら、自分の人生の夢の実現を目指して日々着実に歩んでいってください。『継続は力』です。



言語聴覚学科長
糟谷 政代

第6期生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業に際し、入学からの4年間の思い出(楽しかった大学祭やコンパ、大変な戸惑いの中での臨床実習をやり終えたときの充実感、国家試験対策勉強での不安や焦りなど)は、尽きることなく走馬灯のように駆け巡っていることでしょう。あなたたちは楽しいことばかりではなく大変なことを経験しました。それは大切な友との別れでした。その別れは突然で、交通事故という理不尽な出来事に心は辛く悲しみで一杯になり怒りで張り裂けんばかりでした。しかし「友への祈り」を通して「命の大切さ」や「友との絆」の大切さを学びました。これら4年間の貴重な経験は、社会人として歩んでいく貴方達にとって大切な宝になっていくことでしょう。言語聴覚士の仕事は人を思いやり心ある支援をして人と人の結びつきの糸を紡いでいくとても大切な仕事です。胸に希望の灯を燃やして未来に羽ばたいていってください。応援しています。



看護学科長
塚本 康子

看護学科第1期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。看護学科から第1期生が巣立っていくことに深い感慨を覚えます。皆さんは、先輩という道標がいらないなか、バイオニア精神で4年間を乗り切ってきました。私たち教員も、皆さんとともに学科の校風を作り上げようと取り組んでまいりました。今では臨床の指導者の方々から、「新潟医療福祉大学の学生は元気がいい、明るい」という定評もいただけるようになりました。これから社会人としてのスタートをきる皆さんには、新しい経験が満ちあふれています。元気さ明るさとともに、経験を培いながら、たくましく看護職に育っていかれることを願っています。社会に出ると、さまざまな試練もあるかと思えます。大学とのギャップも感じるかもしれません。でも、もち前のバイオニア精神で、新潟医療福祉大学看護学科の卒業生らしく乗り切ってくださいと信じています。今後の皆さんのご活躍を祈念しております。



義肢装具自立支援学科長
江原 義弘

6期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。義肢装具自立支援学科は新しくできた学科なのでまだ満3年です。新入生が1年生、2年生、3年生になっていく過程を見ていると、1年生は中学生のような感じ。それが2年生になると、あっという間に高校生の感じになり、3年生では、大学生らしくなってきたなと思っているうちに、プロフェッショナルの卵らしき雰囲気も急に出てきました。卒業生の皆さんはすっかりプロフェッショナルです。大学の4年間で成長は著しいものがあったと思います。社会に出ても1年1年どんどん成長されると思います。しかし、今まではどちらかと言えば受け身の立場、教えてもらう立場としての成長でした。これからは全てを自ら学び取っていかなければなりません。成長できるか、現状維持でとまってしまうかは自らの努力で決まります。社会に貢献するという夢に向けて向上心を持ち続けてください。



社会福祉学科長
丸田 秋男

6期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。厳しい社会経済情勢の下で、皆さんは自分自身を冷静に見つめ、就職活動においても国家試験対策において最大限の努力をしてくれました。また、21世紀の福祉社会を担う専門職や行政職を養成するという本学科の使命をよく理解し、新たな道を開拓してくれました。具体的には、難関の公務員上級試験において、今年も新潟市(福祉職)をはじめ三条市(一般行政職)、聖籠町(一般行政職)で合格者を出すことができました。更に、医療分野では、山形済生会病院、燕労災病院、三之町病院等の総合病院における医療ソーシャルワーカー職の道を切り開いてくれました。これら6期生の努力の成果は、後輩にとって大きな励みであるとともに、目指す姿の方向性を示してくれるものと確信しております。今後は、「利用者やクライアントの生活や人生との関わりを通して自己実現できること」に喜びを感じ、常に利用者やクライアントに感謝できる(“ありがとうございます”と言える)専門職を目指してください。



受付の様子



久しぶりの再会に顔がほころびます。



総会。齊藤会長の挨拶。

第5回総会・第3回首都圏支部総会・設立5周年記念交流会



集合写真を撮影しました。みなさんありがとうございました。

同窓会設立5周年記念交流会

同窓会会長 齊藤 公二 (健康栄養学科卒 1期生)

11月28日(土)、チサンホテル&コンファレンスセンターにて、「第5回新潟医療福祉大学同窓会総会、第3回首都圏支部総会ならびに同窓会設立5周年記念交流会」が開催されました。今年度は、本同窓会が設立して5年が経過した記念すべき年ということから、毎年行われている同窓会総会、首都圏支部総会の同日開催に加え、5周年記念交流会を併せて開催させていただきました。

その中でも、今年はなんと言っても5周年記念交流会が中心でした。遠くは愛媛から来てくださった一期生がいるなど、100名の方からご参加をいただき、盛大に執り行われました。

職種が違う。職場が違う。住んでいる県が違う。そんな中でそれぞれの

悩みや苦勞、近況を伝え合えるということは、とても実りのあることでした。私たちのような他職種で一同に会することができ、在学時代同様、縦横の繋がりある同窓会も全国でまあれでしょう。母校の発展は、卒業生の活躍なしにはありえません。「新潟医療福祉大学の卒業生ということにより胸を張れるよう、卒業生として同窓会を盛り上げていきたい。」そう思える一日となりました。

今後も同窓会は毎年こんな風に和やかに会員のみなさんが集まれる機会をどんどん作っていきたくと思っています。ぜひ、友人、先輩、後輩、先生を誘って参加してください。お待ちしております。



原首都圏支部長の挨拶。



高橋学長の挨拶。



交流会。豪華な料理が並びます。



高橋学長が米林副学長(中)、山本副学長(右)のご紹介。



デザートも。



吹奏楽部の演奏。なごやかな雰囲気にしてくれました。



先生方からも一言いただきました。



和太鼓部「颯」の演奏。迫力がありません。

交流会報告

同窓会役員 吉川 萌(健康栄養学科卒 1期生)

新潟医療福祉大学同窓会を設立して5周年という節目を迎えました。これを記念し、交流会が無事に開催できたことを心から嬉しく思っております。この記念交流会は卒業生と教職員の方を対象にしており、懐かしい先生方やなかなか会えない友達に会えるきっかけになればと思っていました。この記念交流会には卒業生・教職員合わせて約100名の方々に参加していただくことができました。近況報告や情報交換の場、先輩・後輩のつながりを深めるいい機会になったのではないかと思います。在学生である吹奏楽部や和太鼓部の方にも参加していただき素晴らしいパフォーマンスを披露していただきました。懐かしい大学時代の写真を集めたスライドショーも行い、当時を振り返りました。また記念交流会と一緒に同窓会総会ならびに首都圏支部総会を開催しました。未だに同窓会がどんな活動をしているのか分からない方が多数だと思います。同窓会の活動を少しでも知ってもらうこともこの交流会を開催する目的の一つでした。同窓会は会員一人一人の繋がりを大切にしています。卒業後、様々な方とコミュニケーションをとる機会が増え、コミュニケーションの重要性を実感しているのではないかと思います。縦横の繋がりを、同窓会を通して役立ててもらいたいと私たち役員は考えています。参加していただいた方々、記念交流会に協力していただいた方々に心から感謝申し上げます。これからも同窓会の活動にご理解をよろしく願いいたします。



理学療法学科



作業療法学科



言語聴覚学科



健康栄養学科



社会福祉学科

学科近況報告

Recent report

理学療法学科 講師 椿 淳裕



同窓生の皆さん、理学療法士になった頃の目標に近づいていますか？皆さんが気にしているであろう理学療法学科の様子を、この1年を振り返りながら報告します。

まずは新任の先生方です。4月にリハ専門医の佐久間真由美先生と解剖学がご専門の鈴木了先生が着任されました。また、2期生の菅原君が、10月から菅原和広先生として後輩を指導していることは特筆すべきことです。同窓生の期待を一身に受け、存分にその力を発揮しています。

学科の活動に目を移しますと、昨年度から行われている臨床実習前の学生を対象とした面接実習に並行し、今年度はOSCE導入に向けた活動も本格化しました。また学会や講演等で先生方それぞれが日本全国、世界各国を飛び廻っています。今年度の海外研修はフィリピンとアメリカでした。

来年度以降もさらにパワーアップし、学科教員が総力を挙げて教育活動・研究活動に邁進していきます。

今年度から理学療法学科のホームページ(<http://www.nuhw-pt.jp/>)が動き出しました。頻回にアップデートされるホームページにこまめに足を運び、学科の活動の“今”を共有しましょう!!



Recent report

作業療法学科 講師 貝淵 正人



今年度4月より、今西里佳先生、鈴木誠先生、お二人の新しい先生をお迎えしました。ご専門は、今西先生は排尿障害、鈴木先生は神経生理であり、作業療法学科の教育、研究面では、ますます充実して参りました。

この原稿をお読みになるのは国家試験の後ですが、1月現在の作業療法学科は、相変わらず、業務や研究も多い中、学生指導に力が入っています。

昨年度の国家試験では、全員合格という全国でも少ない快挙をなしましたが、今年度も昨年に続け、全員合格V2をスローガンに学生、教員一同一丸となって進んでいます。今年も、各勉強グループに各々教員がついて、個別指導もおこなっています。

3年生や2年生も、実習にむけての勉強など、実際の対象者を目の当たりにして作業療法士になるmotivationが上がってきています。

実習前には、例年のように、学生が自主的に集まり、評価技術や治療技術を練習したりしているのは、作業療法学科の名物となりつつある光景です。

研究活動などにおいても、教員が日本公衆衛生学会で表彰されたり、日本ハンドセラピー学会の実行委員長など、全国的に活躍しています。

教員、学生が一体となり、国家試験さらには、日本の作業療法を発展させる意気込みでキャンパスライフを満喫しています。



Recent report

言語聴覚学科 准教授 山岸 達弥



卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。益々お元気で活躍のことと思います。さて、本学科では、昨年3月に渋谷直樹先生が他大学に移られたため、4月より新学科長として糟谷政代先生(前新潟大学教授)が着任されました。新たな体制で学科運営にあたっております。平成22年度より大学内に言語発達支援センターを発足するなど、その準備に追われているところです。

今年度の日本言語聴覚学会ですが、「言語聴覚療法の展開」という主題のもと、6月26(土)、27(日)の2日間に渡り、大宮ソニックシティにて開催されます。小児から成人までの言語障害、聴覚障害、また、摂食・嚥下障害や高次脳機能障害などST業務にかかわる全分野を網羅している学会です。卒業生との出会いや卒業生の発表など思いがけないこともあるでしょう。是非ご参加ください。

その他各種学会や勉強会など目白押しですが、どこかで元気に活躍している皆様と会えるのを楽しみにしております。



Recent report

義肢装具自立支援学科 教授 真柄 彰



市内の大雪にまけず義肢装具自立支援学科と新潟ハビリ研究会が共同で、筑波大学の山海教授らが開発したロボットスーツ・HALの勉強会を行いました。当学部生、院生、教員や他学科からも多数参加しました。HALはテレビで紹介されていますが、詳細な構造は伝えられておらず、実際に見て質問をして、その理論と構造が理解できました。両側の股関節と膝関節をモーターで駆動するための制御信号は両側



の下肢に装着した8カ所の電極からの生体信号により4つの関節が独立して制御されています。モデルとして病院のセラピストと脊髄損傷の患者さんが来学して、実際に装着してくださいました。患者さんは自力では歩行できないのですが、このスーツによりちょっと介助は必要ですが、歩行器で歩行できました。機能的電気刺激で歩ける私の患者さんもおられますが、HALですと手術は不要で、訓練も容易です。学生も手伝ったり、お話ししたりして勉強になりました。

Recent report

健康栄養学科 准教授 渡邊 榮吉



卒業生のみなさんお元気ですか？私は5年前に縁あって本学科で教壇に立つことになりました渡邊です。1期生との接触はなかったのですが、臨地実習の訪問時や学会等でお会いし、その後、連絡を取り合っている学生もおります。



さて、本学科の近況をお知らせします。昨年4月に本学科の開学にご尽力頂いた村山篤子先生と荒井富佐子先生、助手の五百川知子先生(3年間勤務)、樋口真紀子先生(1年間勤務)が退職され、稲村雪子先生(給食経営管理)、笹川トシ子先生(学校栄養指導論)、保莉美美先生と丸山真菜美先生(助手)が着任しました。学科のイベントとしては、学生の海外(上海)研修、国内施設研修等を実施しました。これら研修報告やその他活動は、本学科ホームページ「ニュートリ放送局」に掲載されています。

卒業生の皆様も、本学科のブログに卒後の近況を掲載し、同窓生及び後輩と情報交換をしませんか。希望者は学科の先生にお問い合わせください。

Recent report

健康スポーツ学科 准教授 藤巻 健一



今年度は、本学科として2度目の卒業生を社会に送り出すことになりました。卒業生には、4年間で培った健康・スポーツに関する力量を十分に発揮して諸分野で活躍されることを期待しています。卒業生の進路については、昨年に引き続いて厳しい就職状況にありながら、皆さんのがんばりにより、昨年度並みの採用状況を維持しています。特に、2名の人が新潟県教員採用選考を突破し、採用となったことは明るい話題でした。

6月にオープンした第3体育館とトレーニングセンターは賑わいを見せ、スポーツ活動・研究に大きく寄与しています。

クラブ活動では、水泳部・陸上部がインターカレッジで個人入賞、サッカー部男子及びバスケットボール女子がインターカレッジ出場を果たすなど各部が健闘しました。さらに、地元開催となった「トキめき新潟国体」でも各競技において多くの選手が活躍しました。また、新潟県と中国黒竜江省の間で毎年スポーツ交流が行われていますが、その一環として黒竜江省水泳選抜チームと本学水泳部の間において水泳練習会・記録会が開催され、国際交流面で大きな成果を上げました。

以上が健康スポーツ学科の近況報告です。



Recent report

看護学科 准教授 中山 和美



看護学科では昨年、新潟市内の高校より依頼されてセクシュアリティ教育を開始しました。大学生と高校生が共に学びあうピア(仲間)エデュケーションという手法を用いています。当初は試行錯誤でしたが、学生たちはオリジナリティ溢れる内容と技法で対象の高校生や参加した高校教諭にアピールし、充実した教育になってきています。高校の先生を交え対象把握に努めたことやスライド・ロールプレイなど視覚的に高校生を引きつけた結果だと思います。学生たちは授業や実習・試験の合間に学習し、準備や練習を重ね頑張ってきました。このピアエデュケーションはボランティア活動ですが、この企画に携わる全員が熱意をもってかかわっています。4年生が3年生をサポートする体制も生まれました。昨年は10余名、今年は20名を越える学生が希望し、男子学生も参加しています。この取り組みは学生にとっても良い経験となっていますので、今後も継承され発展していくことを期待しています。



Recent report

社会福祉学科 講師 渡邊 敏文



皆様、元気でご活躍のことと存じます。今冬は暖冬と言われておりましたが、新潟市内も大雪に見まわれました。1年は早いもので、平成21年度も終わろうとしています。4年生の就職状況は、福祉施設をはじめ、社会福祉協議会や地方公務員の上級職の内定をいただいている人もおります。

さて、今回は、キャリアアップについてです。もともとキャリアアップは自分のスキルを磨いていくことですが、自分を活かすことや、意識して自己能力を向上すること、自己実現を図ることなどとも言われています。その一つの方法として、転職があります。これまでの日本では、終身雇用といったこともあり、あまり考えてこられませんでした。最近、雇用形態も大きく変わり、転職をする人も増えてきています。本大学でも、このようなことで相談に来られる卒業生もいます。例えば、「民間企業に就職したが、福祉職を目指したい」などといったケースです。いずれにしても、どんなキャリアを積めば、自分の人生がより充実し、豊かになるか考える時代となってきました。

最後に皆様のますますのご活躍を祈念しまして、社会福祉学科の近況報告とさせていただきます。

在学生による 先輩訪問日記

J A 長野厚生連 佐久総合病院

理学療法学科 3年
小野 紘平

平成21年12月某日、佐久総合病院(長野県佐久市)へ先輩訪問に行ってきました。佐久総合病院は、商店街の中という活気溢れる環境にありました。

佐久総合病院では、新潟医療福祉大学卒業生の松井健さんが働いています。松井先輩は理学療法学科の先輩です。

佐久総合病院に訪問してはじめて、松井先輩に病院を案内していただきました。とても緊張していたのですが、気さくに話しかけていただいたおかげで緊張がとれました。

次に松井先輩にいろいろとインタビューをさせていただきました。佐久総合病院は地域社会とのつながりを大切にしている地域活動を積極的に行っています。松井先輩も地元チームとのサッカーの試合や、地元で行われているお祭りに参加しているそうです。

松井先輩は現在、急性期病棟で働いています。佐久総合病院は総合病院のため、年齢や疾患など様々な患者様を担当する機会があり、幅広い知識と技術が必要だそうです。仕事をしている中でうれしかったことややりがいについてお聞きしたところ、リハビリを行っていく上で患者様との信頼関係がとても大切になるので患者様と良い信頼関係を築くこととてもやりがいを感じるそうです。また、松井先輩は人と話すことが好きで、患者様とたくさんコミュニケーションをとって、信頼関係が築けたと感じたときはとてもうれしかったそうです。今後の目標については、総合病院でさま

ざまな患者様を担当するので幅広い分野について経験・勉強して、興味のある分野についてつきつめて勉強していきたいそうです。

最後に後輩へのメッセージをいただきました。学生のうちは遊びやバイトがとても良い社会勉強となるので、勉強以上にたくさん遊んでバイトをしたほうが良いとのこと。また、病院や施設では他職種間での連携がとても重要になるため、他学科との交流など横のつながりを大事にしたほうが良いというアドバイスもいただきました。いろいろとアドバイスをいただくことができ、とてもためになりました。最後の1年は、勉強以上に目一杯遊んで、人との交流を大切にしようと思います。今回、松井先輩とお話させていただき、とても勉強になりました。お忙しい中、大変ありがとうございました。



新潟大学医歯学総合病院リハビリセンター

作業療学科 3年
中嶋優太

平成21年12月某日、新潟大学医歯学総合病院総合リハビリセンター（以下、新大病院）へ先輩訪問に行ってきました。新大病院は、新潟市の中央区に位置し、ビルや店舗がたくさんあり交通量も多い環境の中にあります。

新大病院に到着すると、新潟医療福祉大学作業療学科卒業の田畑智先生（1期生）が出迎えてくださり、作業療法室に案内していただきました。とても広くてきれいな作業療法室で、病院を利用する方も気持ち良くリハビリを受けられるだろうと感じました。続いて田畑先生から大滝直子先生（3期生）と高橋恭子先生（4期生）をご紹介いただきました。この3名の先輩方が優しく親切に対応してくださったため、すぐに緊張が解け、リラックスすることができました。

インタビューは、主に田畑先生に答えていただきました。作業療法の対象についてお聞きしたところ、中枢神経系の疾患、悪性腫瘍、整形疾患や呼吸器疾患などの患者さんに対し、治療や訓練を行っているとのことでした。仕事の中での喜びについては、担当した患者さんが転院した後に退院の報告をしに来られた際に、一緒に喜ぶ瞬間だとおっしゃっていました。また、仕事のやりがいについては、患者さんとの距離が近い職種であり、環境設定や場の使い方が重要で、何かの動作が困難となった患者さんのニーズに対応して作業療法士は作業活動を通じて何ができる

のかと考える点だとおっしゃっていました。作業療法士に必要な事は、技術や知識はもちろんのこと、患者さんの気持ちを理解する上で“感受性”や“柔軟性”であるとおっしゃっていました。今後の目標や抱負については、作業療法士として知識や技術をさらに追求していき、病院や作業療法士のカラーを出していきたいとおっしゃっていました。また、新潟医療福祉大学の学生指導に今後力を注いでいただけるという有り難いお言葉も頂戴しました。最後に後輩へのメッセージということで一言いただきました。「学生中はたくさん遊び、多くの経験をする事」が大切だそうです。その経験の中で色々な事を感じ取るように意識すると将来に生かせるそうです。また「専門職というものは変化していくもので勉強を怠ってはならない」「対象が変われば方法や手段も変わる」というメッセージをいただきました。

今回、大変貴重で有意義なお時間をいただきました。吸収すべき部分が多くあり、とても勉強になりました。この経験をこれからの大学生活や将来の臨床現場で生かし、立派な作業療法士になりたいと思います。お忙しい中本当にありがとうございました。



社会医療法人 嵐陽会 三之町病院

言語聴覚学科 3年
大湊佳奈子

平成21年12月某日、社会医療法人嵐陽会三之町病院（三条市）へ先輩訪問に行ってきました。三之町病院は三条市の中心地である商店街通りにあり、主に急性期医療の病院として、多くの地域住民が利用する医療機関としての役割を担っています。

三之町病院では4人の言語聴覚士が働いており、3人が言語聴覚学科出身です。今回は5期生の小柳郁弥さんに職場案内、インタビューさせていただきました。

三之町病院は内科、神経内科を始め言語聴覚士のいるリハビリテーション科を含む10の診療科があります。リハビリテーション科では脳血管障害・整形外科疾患・加齢に伴う心身の機能低下等の患者さんに対し、運動機能及び日常生活活動の維持・改善を目指し急性期よりリハビリテーションを行っています。また、回復期リハビリテーション病棟を設置し、早期在宅復帰を目標とした集中的なリハビリテーションを行っています。

私は実習でも三之町病院にお世話になったのですが、他職種との連携をはかりながらより良いリハビリテーションを提供することを心がけている病院だと感じました。平成19年に増改築工事を行っており、病院内はとても綺麗で患者さんにとって利用しやすい施設であると思います。

そして、小柳先輩と雑談のような形式でインタビューさせていただきました。現

在、小柳先輩は回復期病棟を担当しており、成人の患者さんを診ています。主に失語症、構音障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害の患者さんを対象にリハビリテーションを行っているそうです。このため、広い専門知識と患者さんとのコミュニケーションが重要であるそうです。仕事をしている中で、患者さんに感謝されること、入院している方に病棟内で声をかけてもらったり、頼ってもらえること、患者さんの症状を理解できたことにやりがいを感じたり、嬉しいと感じるとおっしゃっていました。今後は現状に満足せず、多くの患者さんに接しながら言語聴覚士として成長し、より良いリハビリテーションを行っていくことが目標だそうです。最後に、母校に一言ということで学生生活を楽しく、友人、先生との時間を有効に使ってほしい、そして一人一人が自分らしく成長してほしい等のお言葉をいただきました。

先輩のアドバイスのもと、今後の学生生活を無駄なく有意義に過ごしたいと思います。お忙しい中、大変ありがとうございました。



新潟県醤油協業組合

健康栄養学科 3年
河村 恵美

平成21年3月、長岡市にある新潟県醤油協業組合へ先輩訪問に行かせて頂きました。新潟県醤油協業組合は、昭和47年12月に新潟県内の老舗醸造元18社が集結して設立された組合です。本組合は、食文化へのサービス、人々の豊かな生活と幸せの実現を目標とし、醤油・タレ・汁・ドレッシングの製造・開発を行っている企業です。

本組合は、製造工場、品質管理室、商品開発室で構成されており、商品開発室には、本学科2期生の上野友輝子さんと5期生の星睦水さんが勤務されていますが、今回、対応してくださったのは、上野友輝子さんでした。

先輩の勤務している商品開発室は、ガスコンロ、調理器具、実験器具等が並んでおり、当大学の食品学実験室のような雰囲気でした。ここで何十回も試作を繰り返し、業者と話し合い顧客のニーズに合わせた新製品を開発しているとのこと。なお、新製品を開発する際には、ラベルやボトルの製作も併せて行なうとのこと、実際に販売されている新商品の瓶の形状やラベルは、特徴的で目を引くものでした。

先輩のお話を伺い、商品開発を行うためには、食品学・食品衛生学・調

理科学などの基礎知識に加え、世間でどのようなものが必要とされているか見極める市場調査能力、新しい商品やラベル、ボトルを作るためのアイデアと想像力、食品分析の基本的な実験操作、取引先とのやり取りを円滑に進めるためのコミュニケーション能力、会社の商品を売り込む積極性(セールスマンとしての能力)など、多数の能力が必要であることがわかりました。さらに、商品を開発、製品化するためには、失敗に負けない根気強さと努力が不可欠だと思いますが、「自分の考えた製品が店頭に並んでいるのを見るとうれしいし、やりがいがある」と楽しそうに話している先輩の表情を拝見し、商品開発はとても魅力的な仕事であると感じました。

今回、企業(商品開発)における管理栄養士の業務内容を知ること、働くイメージや大学でのカリキュラムの意味、科目間のつながりを理解することができました。今回の先輩訪問では、とても得るものが多く、大変勉強になりました。

上野先輩!!(ビックリマーク)お忙しい中、本当にありがとうございました。

先輩が開発した商品



商品開発室



商品開発室

上田整形外科クリニック スポーツ関節鏡センター

健康スポーツ学科 4年
大野 正博

平成21年2月18日、長野県上田市にある医療法人アレックス上田整形外科クリニックを訪れ、卒業生である小林なつきさんの仕事を見学させていただきました。クリニックには、医師・理学療法士・トレーナーの方々が勤務しており、その中で小林さんは、トレーナーとしてどのような指導を行うかを自分で考えて、患者さんに対して運動指導を行っていました。また、クリニック内には一人一人の目的に合わせた運動を専門のパーソナルトレーナーがマンツーマン(最大1対3)で指導するPCC(パーソナルコンディショニングセンター)が併設されており、小林さんはこちらでも健康の保持増進や、競技力向上等を目的としたトレーニング指導を行っていました。その他にも、クラーク業務をしたり、勤務時間外には勉強をしたりしているとのことでした。多忙な日々を送っている小林さんですが、「患者さんや利用者の方に満足していただける指導ができた時や患者さんの症状が軽快し、感謝していただいた時はとてもうれしく思います」とおっしゃっており、今後はより専門的な知識や技術を身につけ、患者さんや利用者の方一人ひとりに効果的な運動指導をしていきたいという目標を持って働いていました。

こちらのクリニックでは医師・理学療法士・トレーナーの方々が連携して、患

者に対して万全な対応ができる体制が整っていました。トレーナーは、日本では医師や理学療法士などに比べて地位が確立されておらず、未だ厳しい立場におかれています。そのような状況において、このように職場での仕事が確立されていることには感動しました。

小林さんは「学生の時にしかできないことをたくさん経験し、多くの人と出会い、自分の視野を広げていってください」と応援メッセージをくださいました。私は今回職場を訪問させていただき、知識、経験、人間性どれをとっても社会に出るには未熟であると感じました。ですので、今後は、より一層の勉強や経験を重ねて、小林さんのように自分のやりたい職場で夢や目標を持ってそれに向かって突き進めるように努力していきたいと思いました。

最後に、お忙しい中この機会を与えてくださった、上田整形外科クリニックの鈴木院長はじめスタッフの皆さん、そしてインタビューさせていただいた小林なつきさんには心から感謝しております。本当にありがとうございました。



医療法人 大誠会 介護老人施設 大誠苑

作業療法学科 3年 五十嵐 絵理
社会福祉学科 3年 川島 裕紀

平成21年1月某日、[医療法人大誠会]介護老人保健施設大誠苑(群馬県沼田市)へ先輩訪問に行ってきました。大誠苑は駅から10km程離れたところにありました。周囲には、同法人の内田病院や、訪問看護ステーション、グループホーム(認知症対応型共同生活介護)等、多くの施設がありました。

大誠苑では、原隆祥さん(1期生)、中曽根さん(1期生)、大橋さん(4期生)の3人の先輩が働いています。原さんは社会福祉学科、中曽根さんと大橋さんは言語聴覚学科出身です。

大誠苑を訪問してはじめて、原さんから大誠苑の概要や沿革についての説明をしていただきました。その後、内田病院の一般病棟、療養病棟、大誠苑の一般病棟、認知症専門棟を案内していただきました。そこで、病棟ごとの違いや特色について、担当の職員の方々に説明していただきました。一般病棟では「ユニットケア」を行い、一人ひとりに注意を払った支援を行っていました。認知症専門棟では、利用者の方々がその人らしく生活できるように、専門スタッフによる支援が行なわれていました。施設を案内していただいた後に原さんにインタビューさせていただきました。原さんは現在支援相談員として働いているとのことでした。

仕事をしている中でやりがいを聞いたところ、『妥協しようとすれば妥協できる仕事だが、そこで満足するのではなく他の職種と連携し、どうすれば利用者にとって最善の援助になるのか、また、万全な状態で在宅復帰できるのかを考え、試行錯誤していくこと』ということでした。原さんのこれからの目標を伺ったところ、在宅復帰に向けて利用者本人のニーズに合わせ、ADLが満

足するための援助をすることのことでした。

インタビュー中に就職についての悩みを相談したところ、特に社会福祉学科は実務業務がわかりにくいと、何を目標にいいか迷

うことも多いと思うが、専門分野に行ってから学ぶことも多く視野も広がる。今は大学でいろいろな経験をしていき、それを活かしていくことが大切になってくるという言葉をいただきました。在学中いろいろなことに挑戦し、将来に活かせるようにしていきたいと思いました。

また、後輩にメッセージということで、医療福祉大学の特色の他職種との連携は社会に出ると重要になるため、在学中に他学科の人との関係を築き、他職種の理解をしていってほしいとのことでした。

原さんは現在の職に就いてから栄養面のほうにも関心を持ち始めたようです。常に向上心を持ち、利用者のことを一番に考え、行動する原さんはとてもかっこよく見えました。私たちは、まだ将来について悩み部分が多いですが、どこに進むにしても原さんのような考え方のできる人になりたいと思いました。今回インタビューや施設見学をさせていただいて勉強になったことがたくさんあったので、残りの学生生活や将来に活かしていきたいと思いました。

お忙しいにも関わらず私たちのために時間を割いていただきありがとうございました。



Message

- Q1 4年間の思い出。特に印象的だったこと
- Q2 社会人1年目をどのように過ごしたいか
- Q3 今後の夢や目標
- Q4 最後に、同窓生や在学生にメッセージをお願いします



健康栄養学科
鈴木 唯

- Q1. イベントが多かったことが印象的です。健康栄養学科は、民謡流し・学祭への出店など様々なイベントを積極的に行う学科でした。みんなで力を合わせて成功したときは、嬉しく、また楽しかったです。
- Q2. 分からないことがたくさんあるので、失敗を恐れず、現場でしか分からないことを吸収しながら働きたいです。また、大学での交友関係を大切にしながら、充実した生活を送りたいです。
- Q3. 今は、新社会人として働くということに対して期待と不安でいっぱいなので、今後、働く中で具体的な目標を見つけていきたいと考えています。早く一人前の栄養士として働けるように頑張ります。
- Q4. 大学4年間は本当にあつという間でした。ついこの間入学したような気分です。楽しい4年間をありがとうございました。



理学療法学科
吉田 聡介

- Q1. 学友会に所属していたことです。2年次は副会長、3年次は会長をやらせていただきました。今までこのような経験をしたことがなかったので、とても良い経験になりました。人前で話すことやまとめる仕事をしたことによって、将来役に立つのではないかと思います。
- Q2. 社会人1年目は分からないことがほとんどだと思いますが、チャレンジ精神を持って何でも挑戦していきたいです。見知らぬ土地で1人暮らしなので不安ですが、仕事とプライベートにメリハリをつけて楽しみたいです。
- Q3. 今後の目標は、大阪に就職するのですが、そこで何年か仕事をして知識と技術を身につけて新潟に帰ってくることです。新潟県内は就職難ですが何とか就職口を勝ち取ります!!
- Q4. 在学生へ。大学4年間は最初のうちは長いな～と思いますが4年生になるとあつという間です。ほんとに。大学4年間で一生に残る思い出を作ってください。学生のうちにしか出来ない海外旅行とか色々なバカなことかやりますよ。同窓生へ。4月から同窓生としてどうぞよろしくをお願いします。



健康スポーツ学科
平石 卓也

- Q1. 学校、地域など、場所、年齢を問わず様々な人達と出会えたこと。そこで様々な考えに触れることで自分の世界がとても広がったと思う。出会った人達にはいくらか感謝しても足りないくらい良い経験をさせてもらったと思う。
- Q2. 就職できたということだけで満足せずに、自分の目標や夢を忘れないようにモチベーションを保ちながら仕事に取り組むようにしていきたい。また、仕事を始めることで忙しい日常になると思うがその中に楽しさを見出していこうにしたい。
- Q3. 今後は仕事をしながらアスレティックトレーナーの資格を取得することを1つの目標にしています。
- Q4. 4年間楽しい思い出を作ってくれてありがとう!そして…これからもよろしく!



作業療法学科
矢崎 綾奈

- Q1. この個性的で最高な48人の仲間と過ごした1日1日が思い出です。みんなで協力した4送会や激励会、わいわい騒いだ飲み会や卒業旅行、盛り上がった餅つきと豚汁作りなど…みんなと過ごした日々は楽しいことばかりでした。
- Q2. 勉学に励むことはもちろんのこと、広い視野をもって様々なことを経験して成長していきたいです。沢山迷うこともあると思いますが、出会いを大切に明るく過ごしたいです。
- Q3. 患者さんの役に立てよう一生懸命頑張りたいです。そして「笑顔がステキなOT」になるのが夢です。
- Q4. みんなと出会えて本当に幸せでした。これからは別々の道を歩んでいくけど、今度はOTとして会えることを楽しみにしています。本当に最高な4年間をありがとうございました。



看護学科
水戸部 優太

- Q1. 9人しかいない看護男子で飲み会(ウオッカパーティー)をして、騒いでいたことを思い出します。学生時代にしかできない思い出を作れたと思います。最後に、我が子のように可愛がってくれた、H先生が最も印象に残ります。“愛情”を沢山もらいながら4年間を過ごすことができました。二人で肩を組みながらエスカレーターに乗っていたら、二人で転げ落ちました…。あの時は、死ぬかと思いました(笑)。今となっては、懐かしい思い出です。
- Q2. 1年目は、社会人としての基礎や看護師としての技術・技能を研修やマニュアルに沿って身につけてしっかりと行う、職場に慣れたいと思います。新たな土地での生活になるので、休日はカメラ片手に散歩でもしながら過ごしたいです。
- Q3. 今後の夢は、心電図という心臓の機能を測るのもで、相手の心理状態を把握することができることを研究し、実現可能にしたい。夢で終わらないように、研究に励みたいです。今度の目標は、日本で看護師を2~3年間行ってから、海外へ行き行きます。語学を学びながら、他国の看護について、学びながら生活したいです。
- Q4. 一期一会!!一つ一つの出会いを大切にしてください。一度限りの人生、後悔しないように生きてください。



言語聴覚学科
角田 淑乃

- Q1. 大学でたくさんの仲間と出会えたことです!学科の枠を越えてたくさんの友達ができたことです★
- Q2. ここで学んだことをフル活用できればいいな、と思います。自分にできることを精一杯やりたいです。
- Q3. とりあえず、人から必要とされる人になりたいです。そして早く仕事に慣れ、立派に活躍したいです。
- Q4. 最高な仲間と、思い出を作りました…ありがとー!!!



社会福祉学科
長谷川 武

- Q1. 大学に入ってから余暇の時間が非常に多く、今までずっと部活しかしていなかったので、空いた時間をどうやって過ごしていいか初めはまったくわかりませんでした。しかし大学には他県やさまざまな地域から来ている人がたくさんいて、その人達と話して仲良くなって一緒に過ごして行くうちに空いた時間なんてまったくありませんでした。一日中遊んでいたり、二十歳になってみんなでお酒を飲みに行ったり、語りつくせないほどたくさんことをしました。私にとっては大学生活の毎日がとてもいい思い出です。勉強はあまりがんばったほうではないけれど、充実した幸せな日々を送ることができました。みんなありがとう。
- Q2. 学生のままで甘い考えや行動では、社会にでてからは通用しないので新たな気持ちで心機一転がんばりたいと思います。
- Q3. はっきりとした夢はまだないのですが、自分に与えられたことを精一杯こなして常に前を向いて前進して行きたいです。
- Q4. またみんなで集まったとき、思い出話でおいしいお酒を飲みましょう。大学生活という貴重な時間を無駄にしないで、勉強に遊びに恋に全力で取り組んで後悔だけはしないでください。

平成21年度大学近況

2009年
4月

入学式

4月8日、第9回入学式が新潟市の朱鷺メッセで挙行されました。3学部8学科、649名の新入生が未来への希望を胸に、身の引き締まる思いで学長や来賓の話に耳を傾けていました。



2009年
4月



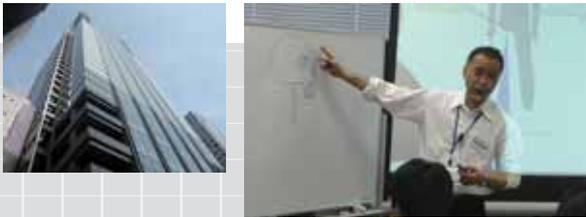
第3体育館棟竣工

各種の室内競技に対応するコートを備えた第3体育館棟が竣工しました。2階にはランニングレーンや各種トレーニングマシンを揃えたトレーニングセンターが設置され、また既存の体育館棟とは連絡されていて横断的に使用することができます。

2009年
4月

バイオメカニクス教授法セミナー

同窓会首都圏総会の会場として使用されている、東京駅サピアタワーにある本学東京キャンパスにおいて、「教員のためのバイオメカニクス教授法セミナー」が開催されました。本学情報発信の拠点として活用されています。



2009年
7月～



オープンキャンパス開催

オープンキャンパス2009が開催されました。2010年4月新設となる「医療情報管理学科」を含む全9学科による学科説明や体験実習に、未来のQOLサポーターを目標とする多くの高校生らが集まりました。

2009年
9月

教育交流協定締結

本学とキングストン大学・セントジョーンズロンドン大学健康社会福祉科学学部は、両大学における連携教育推進における協力関係を進めるための交流協定を締結しました。学部長のフィオナ・ロス氏を本学に迎え、締結式が執り行なわれました。



2009年
10月

大学祭

10月3日・4日の両日、大学祭「伍桃祭」が「SMILE」～笑う門には福来たる～をテーマに開催されました。年々地域との交流が増して、今年は学内外からたくさんの笑顔がキャンパスに溢れていました。



2009年
10月

新潟医療福祉学会

第9回となる新潟医療福祉学会学術集会在開催されました。特別講演やシンポジウムに先立ち行われた一般演題～ポスター発表～の前では活発な意見交換がなされました。次年度は理学療法学科が担当する予定です。



2009年
10月

JICA

10月15日から約1ヶ月、JICA(独立行政法人国際協力機構)の要請により、大洋州4カ国から保健師など8名を迎えて生活習慣病予防に関する研修を実施しました。本学教員の研究実績および、保健・医療・福祉の総合大学であることが評価されての国際貢献となりました。



「第9回新潟医療福祉学会学術集会」開催報告

第9回学術集会 広報担当 相田 陽子

昨年10月31日、新潟医療福祉学会第9回学術集会が本大学を会場に開催されました。

今回の大会は、作業療法学科の大山峰生学科長を大会長として準備をすすめてきました。

テーマを「医療関連職の未来」とし、めまぐるしく変化する社会情勢の中、医療関連職の社会的地位、働く環境、待遇等の問題点を踏まえ、医療関連職は将来に向けてどのように進むべきかについて考えることを狙いとしました。

当日は、さわやかな晴天にも恵まれ、学会員を中心とした参加を得て、約160名の参加者により開催されました。懐かしい卒業生の姿も多数みられました。

午前中の一般口述発表では、社会福祉系、健康科学系、連携教育系とセッションが分かれ、各分野の方からそれぞれ興味深い発表がありました。また、ポスター発表では、地域社会活動、教育、リハビリテーション、健康科学といった多方面にわたる分野のポスターが同一フロアに貼られ、自分の関係する分野のみならず他分野の発表者のポスターをみることができ、フロアでは活発な意見交換がなされていました。口述発表、ポスター発表、いずれの発表も、今後の日常の臨床・教育活動に役立つ、また、普段は触れることの少ない他分野の最新の情報を得る貴重な機会となりました。本大学の大学院生による発表もあり、先生からの質問に熱心に答えている様子がみられました。

午後の特別講演では、大阪府議会議員であられ理学療法士の長野聖先生にお越しいただき、「医療関連職が果たすべき今日の課題」と題してご講演いただきました。医療関連職がより良い技術を国民に提供することと、自らの社会的地位を

向上させることには密接な関係があること、そのためには行政だけでなく政治への働きかけが不可欠であることを、ご自身の活動を交えながら分かりやすくご説明いただきました。長野先生のご講演に続いては、「若手が語る医療関連職の将来像」と題するシンポジウムが、本大学作業療法学科の貝淵正人先生を座長に行われました。理学療法士、看護師、管理栄養士、健康運動指導士、社会福祉士のシンポジストの方が、それぞれの分野を代表し、職種の現状の問題点、強み、そして今後の展望をお話されました。会場からは多数の質問が寄せられ、時間が足りなくなるほど充実した議論が行われていました。

本学では、本学会が健康・医療・福祉分野の連携・発展、さらには共同研究の推進の場となること、また学生・大学院生の研鑽の場となるよう今後とも努力いたします。来年度は本大学理学療法学科の大西学科長が大会長となり、第10回学術集会が開催される予定です。多数の卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。



長野先生 講演の様子



ポスターを熱心に見ている様子

国際交流委員会報告

国際交流委員長 伊藤 隆



同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

おかげさまで新潟医療福祉大学国際交流委員会も無事に平成21年度の事業を終えることができました。

高速交通網の発展、通信技術の進展等に伴い、国民の国際的な事柄に関する関心が近年になく高まっています。国際交流委員会におきましても、開学以来、国際的な視点に立ち、積極的に本学の国際化に向け、努力をしております。おかげさまで皆様のご理解とご協力により、平成21年度は前年度に増して、積極的に活動を続けることができました。

保護者会のご支援により学生向けの英語等海外研修奨励助成制度におきましては、ここ数年間におきまして、アメリカ、オーストラリア、フィリピン、韓国、などの大学等の施設に学生を派遣してまいりました。それぞれ、概ね10日間程度の期間、派遣先におきまして、実地の英語の勉強をするほか、それぞれの専門領域の講義を聴講したり、小実習に参加したり、英語で発表するなどするものですが、参加した学生の間では好評で、年々参加者が増加する傾向にあります。若い感受性の豊かな時期に短期間とはいえ、外国に身を置き、様々な体験をすることは、視野を広げ、将来について考えるよい機会ともなり、とても有意義なことであると思っております。今後も多くの学生が本制度を利用し、将来へ向けて国内では得ることのできない何かを得ていただきたいと存じます。

一方、大学教員向けの国際交流事業についても、これまでにロシア、アメリカ、タイ、イギリス、オーストラリアなどの国々の研究者の方々などと相互訪問、ミニシンポジウムの開催、学生への講義、研究協力などを行っております。教員の教育・研究の面においても、国際語としての英語を駆使して積極的に外国の研究者と交流し、研究面での成果を上げることは本学の全体的な水準を向上させることにつながるものと思われ、今後とも先生方の本制度を活用してのさらなる研究推進が図られることを望んでおります。

新潟医療福祉大学国際交流委員会は高橋榮明学長のご指導のもとに、教員の研究成果の世界へ向けての発信、学生の英語などの外国語の能力の向上と世界の舞台における活躍などを願い、活動を続けてまいりました。今後とも、本学の国際化が伸展し、保健医療福祉領域における専門教育研究機関として、これまで以上に世界の人々の幸福のために貢献するためのお手伝いができれば幸いと存じます。

結びに同窓会のますますのご発展と皆様のご健勝・ご活躍をご祈念申し上げます。



大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムについての平成21年度報告

連携教育推進会議議長 真柄 彰



このたび新潟医療福祉大学を代表校として文部科学省より大学改革推進等補助事業の補助事業を採択いただきましたので取り組み状況をお知らせします。名称は「平成21年度大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」です。取り組みテーマは当大学の基本理念にもとづく、「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」です。皆様ご存知のように、当大学は多種のリハビリテーション医療関連職種も養成しております。多職種間連携によるチームワークはリハビリ医療のみでなく、すべての社会人にとって大切です。連携力を学生時代に身につけることは当大学の目標でもあり、社会から

も評価を受けています。この一環で「総合ゼミ」という多職種間連携教育(IPE)学生セミナーをおこなってきました。教職員はIPEの先進国英国などにて何回か研修を受けております。

平成20年度に英国レスター大学を訪問しました。地域の複数の大学が協力して患者さん宅を訪問し、実際の事例を通じて自分の大学には無い学科の学生と多職種間連携を学びます。日本でもこの方法を取り入れたいと思います。オックスフォード大学などでは多数の学生に連携教育をおこなうため教育事例を蓄積したウェブ上のデータベースを活用しています。日本人学生のためには文化や医療制度的にも日本独自のものが必要で、日本語の仮想事例が必要です。この考えに賛同した埼玉県立大学、札幌医科大学、首都大学東京、日本社会事業大学と連携して作った構想です。現在は準備段階で、各大学のデータを相互に利用したり、他大学の学生・教員と遠隔地から討論・発表できるシステムやTV会議システムを整備し、英国を訪問して仮想事例の作り方を習いました。今後は仮想事例の作り方のワークショップやファシリテータ教員養成講座を開催します。保健医療福祉連携教育を発展させています。



ケアを受ける人のQOLを高めるために多職種同士が学び合う

—連携のあり方やチームアプローチを学ぶ—

連携教育担当 金谷 光子



平成21年の8月17・18・19日、保健医療福祉を目指している学生(新潟にある大学・短期大学に在籍)達を対象とした連携教育のための「学生セミナー」を新潟大学有壬会館にて開催しました。本セミナーは、戦略的大学連携支援事業の一つであり、共生型大学連携による新潟県の人材確保・養成の短期的及び包括的施策による地域貢献包括的施策として行われました。

本セミナーの目的は、「保健医療福祉分野において、ケアを受ける人のQOLを高めるために、連携教育により、ケアを提供する医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・歯科衛生士・ソーシャルワーカー、その他多くの職種を目指す学生が、将来行なわなければならないチームアプローチの演習を卒業前に行なうことで、「チームアプローチ」という新しい能力を供えた質の高い卒業生を送り出すこと」にあります。

専門職間連携教育(IPE:Interprofessional Education:以下IPEと記す)は、すでに10年前よりイギリスを中心に行なわれてきました。IPEとは、スムーズな連携協働を行なう為に、専門職を目指す学生が、お互いについて、お互いから、一緒に学ぶことで、保健医療福祉分野の理解を深め、それぞれの専門職について知り、さらに自らの専門職としての専門性を高めるというものです。本学においては今年度のカリキュラム改正に伴い、学生が卒業後、専門職として多職種と協働する力が持てるような教育内容や方法をカリキュラムの中心に据えております。

本セミナーの参加者は、新潟における保健医療福祉を学ぶ7大学の学生45名(一部他県の医学生を含む)、教員は7大学28名でした。

プログラム第1日目、学生は、英国連携教育推進センター副センター長のHelena Low先生から、英国における連携教育の理念と実際を学び、その後、多職種を目指す学生同士が5~6人のグループに分かれ、参加大学の教員がファシリテーターとなり、翌日に実習場で出会う予定のそれぞれの事例を通して連携という視点からグループワークを行ないました。

第2日目、学生および教員は、それぞれの病院・施設のスタッフ、および患者、在宅の方々との対話を通して、対象となる方々のQOLとは何かを考えるために9ヶ所の実習場へと移動しました。ここで、学生は、実際に患者さんや在宅で療養されている方々と直接会って対話し、ケアの対象となる方々の病気に対する思いや大切にしてきたこと、環境などを知り、昨日まで学生たちが描いていたケアの方向性について再考していく機会となりました。また、病院・施設のスタッフとの対話からチームアプローチの実際を学び、さらに専門的な助言を受けるという貴重な体験をしました。

第3日目、学生たちは、2日間の学習を通して、ケアの対象であるそれぞれの方々にとってのQOLとは何か、そして望ましいケアのあり方について、多職種との連携という視点からディスカッションを行い、一つの方向性を提案し、Helena Low先生から総評をいただき、セミナーを修了しました。学生には、Helena Low先生から修了証が手渡されました。

本セミナーの評価を行うために、学生に対して本セミナーに参加する前後の連携教育に対する認識について調査しましたところ、参加後における認識が優位に高かったことから、学生の段階から多職種との連携協働の視点を学び、実践を行なうことは重要であると思っております。

連携教育は、すでに述べたように専門職同士が連携協働するための教育的学びであります。そのためには、保健医療福祉における現場の多職種間連携・協働が同時に行なわれてゆくことが重要になります。同窓生のみならず、今後とも、是非本学の連携教育に関心を持っていただき、実習、その他の教育にご協力をお願いいたします。

最後に、今回の「学生セミナー」のために快くご協力してくださった方々、及び実習場のみならず、こころよりの感謝と共に礼を申し上げます。



国際協力機構（JICA） 「大洋州における地域保健での生活習慣病予防対策」 研修実施報告

研修担当 村山伸子

1. 研修の背景

南太平洋諸国では、生活習慣病の罹患率、および肥満などのリスクをもつ人が急増しています。罹患した場合には医療費がかかりますし、医師の人数が少ないために十分な対応ができません。そこで、“予防”が重要となります。このような背景の中に国際協力機構（JICA）が、生活習慣病予防についての人材育成研修をおこなうことになり、本学には健康科学部に運動、栄養、看護の教員がそろっており、研修機関として目的を達成できるとして受け入れを依頼されました。本学では、国際交流委員会が窓口となり、健康栄養学科、健康スポーツ学科、看護学科等が連携して研修を企画・実施しました。

2. 研修期間と研修員

2009年10月15日～11月13日の約1か月間、フィジー、ソロモン、マーシャル諸島、バヌアツの看護師6名、栄養士1名の計7名が参加しました。今後3年間の継続が予定されています。

3. 研修の目的と内容

研修目的は、生活習慣病の予防法、計画策定技法について学び、各地域で実施するための包括的なプログラム計画を作成することです。コースは5つのモジュールから構成されています。モジュール1では、自国や大洋州における問題点とその対応策の動向を整理し発表しました。モジュール2では、日本における生活習慣病病態別プログラムとその効果について講義と保健医療現場の見学で学びました（がん、循環器疾患、糖尿病、歯科保健）。モジュール3では、日本における実践的な生活介入法やライフスタイルに応じた生活介入法について講義と実際の実技をおとして理解し、指導スキルを身につけました（運動、栄養、喫煙、メンタルヘルス／母子、学童、成人、高齢者）。モジュール4では、生活習慣病予防の包括的プログラム構成と計画、管理法を学習し（臨床、教育、環境、人材育成、制度）、モジュール5ではこれまでの研修を活かして自国の生活習慣病予防対策計画を作成して発表しました。学外の施設への見学9か所、学内での講義と実習を組み合わせ、20名ほどの教員により実施されました。

4. 実施しての感想

初めて本学で海外からのJICA研修員を受け入れるということで、不安も多くありました。しかし、研修員の満足度や修得度評価も高く、終えることができました。今回の経験で本学の教職員がそれぞれの力を出し合え

ば、かなりのレベルが高い研修をおこなえることを確認できました。生活習慣病予防分野の人材育成における大学の国際協力の先駆的モデルとなると思います。最後になりましたが、関係してくださったすべての方々に感謝いたします。



運動の必要性、実践方法として効果的なウォーキングについて学ぶ。



各国の自慢料理を用いたバイキング方式で食事の適量とバランスについて学ぶ。



開校式でJICAと本学から修了証授与され感涙の研修生たち

JICA研修生の感想

平成21年10月15日から11月13日の間、南大洋州諸国(フィジー諸島共和国、ソロモン諸島、マーシャル諸島共和国、バヌアツ共和国)から生活習慣病予防対策について学ぶため看護師や栄養士ら7名が来県し、国際協力機構(JICA)の研修生として新潟医療福祉大学にて研修を受けました。

日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性、その他に日本での経験や研修を通じて感じたことについて、また自国の問題解決に役立つと思ったことについて伺いました。



送別会での撮影風景



1

Mereseini Wakolo Kamunaga

メレ (フィジー諸島共和国)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

- ①日本人は大変礼儀正しく、規律があり、時間や資源を大切にします。
- ②健康維持に関する調査・研究が継続してなされている点。この定期的に行われる調査・研究の結果に基づいた情報が、わが国には欠けているものであり、大変感銘を受けた。
- ③わが国に比べ、設備や環境が大変整っている。また、限られた土地を大変有効に活用している。

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

研修で学んだ糖尿病予防の為に健康ガイダンスは、自国の問題解決に役立つと思いました。日本は糖尿病問題の原因解明に要した時期があり、それを解決するために、あらゆる取組みをしてきました。そして、研修で学んだことは生活習慣病予防に効果的であると実証されていますので、生活習慣病の早期発見と予防のために、帰国後、研修で学んだことも実践したいと思います。

自国にも、糖尿病予防プログラムがありますが、保健師はこのプログラムにあまり携わってなく、栄養士に任されていますので、人々の生活習慣を改善するためには、保健師も研修を受け関わっていくべきであると思います。

そして、生活習慣病に対して効果的な支援をしていくため、保健師の為に研修コーディネーターとして、あらゆる地域にいる保健師に研修を普及し実施したいと思います。



プール実習



2

Barbara Mark Korakau

バーバラ (ソロモン諸島)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

- ①静かで穏やかな人々
- ②時間厳守
- ③栄養価の高い、バランスの取れた食事

【日本での経験で特に印象を受けたこと】

成田国際空港に到着した最初の瞬間、「なぜ私は研修に申し込んだのかしら?」「なぜ、ここにいるのかしら?」「ここは安全なの?」「私はどこにいるの?」と幾度となく自問自答してしまいました。

そのようなこともあり、飛行機を降りるとき、とても緊張していましたが、機内職員が出口の案内をしながら頭を下げて「ありがとうございました」と言ってくれた瞬間、自分の家に帰ってきたような温かい気持ちになりました。

日本人の相手を敬い、尊敬の念をこめてお辞儀をする挨拶は、すばらしいと感じました。私が、どこに行こうとも日本人固有の挨拶があり、本当に助けが必要なときは、言葉の壁があるにもかかわらず、相手を助けようと精一杯のことをしてくれました。

研修の合間に新潟市内や佐渡のショッピングセンター、レストラン、駅、バス乗り場に行ったときも、日本人の親切心を感じました。私は、やさしく、そして勤勉な日本人の本当の愛情と親切心を心からすばらしいと思いました。そして、帰国してからも、現在の競争社会の中で、日本がどこの国からも尊敬され続けている理由を人々に伝えたいと思います。



栄養プログラム実習



3

Sarah Fekau Mua

サラ (ソロモン諸島)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

①礼儀正しい人々 ②友好的 ③健康に大変気を使っている。

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

年齢や健康状態の違う人たちの為に効果的なエクササイズを考えることはとても難しいことですが、健康改善の為にエクササイズ(ウォーキング/ストレッチング、水中ウォーキングのエクササイズとリクリエーション)を行うことは、自国の問題解決に役立つものだと思います。

帰国してから、私は、年齢や健康状態の違う人たちの指導をしているJICAボランティアの人たちと働きたいと考えています。また、エクササイズの重要性和その効果を人々に指導していきたいと思っています。

【帰国後、サラさんから自国の問題点と取り組み、そして将来の夢についてのレポートが送られてきましたので紹介します】

ソロモン諸島では、人々の行動、生活、食習慣に影響を及ぼすほどの文化的・経済的な変化が近年断続的におこっています。これらの変化は、栄養不良、運動不足、喫煙、アルコールとベテルナッツの濫用によって生活習慣病を引き起こしており、政府は、限られた実力の中で、問題解決をしようとしています。

2005年の調査で死因原因のトップ3は、心血管疾患、腫瘍とマラリアでしたが、最新データでは、糖尿病、高血圧症、癌に変わりました。

■栄養不良

ソロモン諸島の人々は、特に食習慣や行動の変化に伴い、近年、油、塩、甘味料を含む食品の摂取量が多くなってきており、果物、野菜、根菜類の摂取量は少なくなってきました。地元の食品価格の高騰、便利性、食物嗜好の変化、購入の容易さ、そして、栄養に関する知識不足が原因となって日常習慣に変化をもたらしています。それ以外にも家族の拡大化により、家族に食べさせることを優先して、質より量を重視していることも変化の原因となっています。

■運動不足

新技術の導入により、ソロモン諸島の人々は、食事を過剰に摂取しているにもかかわらず運動量が減少してきているので、体重増加と肥満に悩んでいます。厚生省は、健康促進の為に生活様式委員会を設け、健康的な生活習慣を維持するために、サッカー、ネットボール、バレーボール、卓球、アエロビクスのようなスポーツ活動を行っており、問題早期発見のためのNCDSスクリーニングも行っていきます。他省とNGO団体もスポーツ活動を組織的に行うようになってきました。

■喫煙

煙草管理政策は2002年に承認されました。この政策は、喫煙規制を設けること、効果的な通信手段を用いる人々の健康に対する意識を高めること、そして喫煙者には

喫煙休止運動を行うなどの援助を行っています。

政策で実施された活動は、マスメディアを通じて煙草の有害性を説明したり、喫煙休止運動です。厚生省は、煙の無い環境作りを推進しており、その計画は、他の省にも同様に広がっています。

■アルコールとベテルナッツの濫用

国の健康的な生活様式計画では、喫煙とアルコール摂取が生活習慣病を引き起こす2大要因であることを明らかにしています。

その計画では、データで示しているアルコール摂取とそれに関連して起こる病気と社会問題を改善することにより、アルコール摂取と喫煙が及ぼす影響を人々に認識してもらうことができるようになりました。

ベテルナッツは咽頭癌を引き起こす原因になっており、調査結果には、咽頭癌と診断された人は、高い確率でベテルナッツを噛んだり、また喫煙者であることを示しています。しかし最近では、食生活の変化により一般の人々にはあまり見られない傾向になってきました。

■将来の目標

研修で学んだ知識を、特に一般の人々に教育したり、健康維持のために生活習慣を変えてもらえるような基本的でわかりやすい情報を提供していきたいです。

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

①控え目な人々 ②礼儀正しい人々 ③先進技術

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

研修を通じて、運動の重要性を学びました。マーシャル諸島の人々は、全体的に運動不足になっている為、運動をすることは生活習慣病の問題を減少させることに役立つことを学びました。帰国してからは、日本で学んだ運動の重要性和その効果を指導していきたいと思っています。



4

Tamar Lakien

タマル (マーシャル諸島共和国)



研修先へ移動風景



運動プログラム実習



病院訪問



5

Johannes Seremai
 ジョハネス (マーシャル諸島共和国)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

- ①礼儀正しい人々
- ②大変親切
- ③日本では時間は大変重要であり、食事はおいしい。

【日本での経験で特に印象を受けたこと】

来日前、日本はビジネス産業、特に電化製品で、世界をリードしていることは知っていましたが、今回の研修で、短期間ではありましたが、本当に日本は勤勉な人々がいる富んだ国であると実感しました。私が受けた生活習慣病予防の研修で、日本は生活習慣病の問題を解決することのできるすばらしい総合的システムを持っていることに注目しました。というのも産官学が連携して行うため、生活習慣病予防技術や方法は、とても効果的であると思いました。

最後に、日本政府、JICA、新潟医療福祉大学、そして、この研修を成功に導いてくださいました多くの方々に感謝しております。

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

研修を通じて学んだことすべてが、帰国後に役立つことだと思いましたが、学んだことを実行すれば、糖尿病問題も改善され、社会における生活習慣病も少なくなることでしょう。

日本で研修を受けた内容は、生活習慣病予防に効果的であると実証されていますので、私の国でも実行すべきであると思いました。

私は自国では、糖尿病のコーディネーターをしており、ほとんどのプログラムを実行するかどうか決定しています。同僚たちの推薦を受け、この研修に参加しましたので、帰国後は、是非プログラム改善について提案したいと思います。



佐渡にて



南太平洋の踊りを披露



6

Matthew Nasse Robinson
 マシュー (バヌアツ共和国)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

- ①厳密な食生活。よくバランスの取れた食事・食物管理。
- ②時間厳守・人々の勤勉さ。
- ③丁寧で親切。

【日本での経験で特に印象を受けたこと】

「教育」は、日本が今日のように成功するまでのキーワードだと思います。ほとんどの日本人家庭では、自国に利益をもたらすことができるように子供たちの教育に惜しみなく投資しています。教育を受けたおかげで、数十年前から現在に至るまで、日本のハイテク産業は目覚しく発展し、世界中の国々から注目されています。そして、毎朝、学生が制服を着用し、時間通りに通学していますが、学習の中で時間厳守というものを第一に学んでいると感じました。

運動は、私が関心を持った研修のうちの一つです。小学校から大学まで、学校での活動の一環として体育を取り入れ、健康的な生活様式を維持するよう努めています。

学校での活動やレジャーの時間以外にもスポーツをしたり、また両親は子供たちを水泳教室に通わせています。そして、ほとんどの学校では、厚生省と文部省の連携で学校給食管理が行われています。

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

この研修で学んだことは、帰国してからすべて役立つことばかりですが、その中で一番役立つと考えられるものは、栄養管理と栄養管理のできる環境についてです。最も重要なことは、一回の食事で必要な食事の摂取量を把握することで、それを学習することにより広く栄養管理を行うことができます。

知識不足は、過食となり、肥満と貧血を引き起こす原因になるので、知識を得ることは重要なことです。

私が勤務している機関では、現在進行しているプログラムがありますので、生活習慣病プログラムに 1.NCD患者(糖尿病患者)のデンタルケア 2.運動と禁煙など、この研修で学んだことを取り入れていきたいと思っています。



栄養プログラム実習



7

Markson Tetaun Mellekmal
マックス (バヌアツ共和国)

【日本滞在中に強く印象に残った日本人の特徴や特性について感じたこと】

- ①大変友好的で、礼儀正しい人々
- ②勤勉で意志が強い。
- ③日本のすべての質の高い食事が大好きである。
- ④他人に情報や知識を与え助けることにためらいがない。

【日本での経験で特に印象を受けたこと】

思い返してみると、バヌアツにあるJICA事務所から私の携帯電話に日本での研修が決定した連絡を受けてから、わずか2日間で渡航の手続きをしなければなりません。そのようなことをしている間に、気が付いたときには、来日していました。東京国際センター(TIC)での1日目は、高層ビル、足早での出勤風景、そして夜遅く帰宅する人々を見て自分の目を疑いました。TICのオリエンテーションでは、教授は、簡単に日本史と日本がどのように成長したのかを説明してくれました。何だと思えます?ハイテク技術と農産品を作り出している経済についてでした。

東京から新幹線で1カ月間研修を受けた新潟県内へ行き、新潟県内のさまざまな場所を訪問し、現代的で洗練された先端技術のある病院を見学しました。すべての学校にリクリエーション設備が十分に完備され、学習する環境が整っている学校で真剣に学生が勉強する光景もみることができました。

学外研修で行った佐渡には、新潟からジェットフォイルに乗り、1時間ほどで到着しました。ここでは、過去の良き日本を感じることができました。樽でできているたらい舟にのると、アマさんがたらい舟の櫂を八の字を書いて漕いでくれました。水中を見るためのガラスを使って海の底を見せてくれました。佐渡金山公園、佐渡金山、朱鷺、博物館は本当に日本人の生活を反映させているように感じました。そして、美味しい海鮮料理は、今回の学外研修をとっても満喫させてくれました。

【研修を通じて、自国の問題解決に役立つと感じたこと】

自国での運動のレベル向上のために必要と思われる方法の一つは、すでに効果を上げている日本のような運動指針を取り入れ、充実させることです。

日本では、教育や健康分野で生活習慣病問題に取り組んでおり、学校給食と公共団体や市民の援助を受けている運動施設などはとてもシステム化されています。バヌアツも徐々に体育館やリクリエーションセンターなどの公共施設の整備をしていかなければならないと感じました。

知識は、本当に重要だと感じます。理由は、健康的な生活を送るためだけでなく、いかに人々の生活を向上させるかなどの情報交換をすることにより、人々の知識を深め、人材育成につながるからです。

そして最も重要なことは、自国ですでに施行している運動政策がありますが、研修で得た情報を基にその指針作りをすることです。私は、この委員会のメンバーですので、いろいろな委員会で正式なプレゼンテーションを行い、最善の方法で対処したいと考えています。時間はかかると思いますが、徐々に実行していきたいです。

健康教育は、生活習慣病予防のために必要です。日本で研修を受けた生活習慣病対策を他の同僚に伝え、日本で学んだ新しい考えや知識を導入し、学校や地域を通じて、現在のプログラムを強化させていきたいと思えます。

2010年1月にバヌアツ共和国の
マークソン・テタウンさんから
新潟医療福祉大学の皆様へ
メッセージが届きましたので
ご紹介します。

こんにちは。私は、南太平洋のバヌアツ諸島出身のマークソン・テタウンです。昨年はJICA研修生として新潟医療福祉大学で研修を受けることができ、とても光栄に感じています。新潟県での1ヶ月間の研修は、とても貴重な経験で、忘れることのできない思い出となりました。大学の教員や学生の優しい笑顔は、いつも日本、特に新潟を思い出します。もちろん、美味しいお米や佐渡の魚介類、阿賀野市で見た川辺での夕焼け、瓢湖で白鳥に餌を与えたり、多くの白鳥の驚くばかりの鳴き声、そして成田国際空港での混雑した光景は忘れることができません。

私は研修で多くのことを学びましたが、その中でも次に述べることはとても役立つものでした。それはスケジュール通りに行動できるように時間の管理をすること。そして、私の国には日本のように十分な運動施設はありませんが、運動を通じて健康の管理をすること。最後に、健康維持の為にカロリー計算に基づいて、食事の管理をすることです。帰国後、私は、これらのトレーニングの活動計画についてマネージャーに簡単なプレゼンテーションを行いました。その計画は来年実行される予定です。

それから、生活習慣病調査の為に、5日間ほど農村地帯に行き、米国の平和部隊のボランティアの人たちに同伴して600人の農民の調査も行いました。

新潟医療福祉大学に関して私が感じたことは、新潟市郊外に位置し、海風の当たる農園に囲まれ、学生生活を楽しむことができる環境にあると思えます。

2週間前の話になりますが、私は、人材開発・健康管理部門の教育研修コーディネータとして勤務する課に配属されました。新しい仕事はとても面白く、今後、挑戦しなければならない課題の多くあるポストですが、自分自身を成長させてくれるとこだと感じています。

私の将来の夢は、日本、特に新潟に来て更なる研究をしたいと考えています。

ありがとうございました。

マークソン・テタウン

学友会だより

学友会会長メッセージ

平成21年度学友会長 理学療法学科3年 佐藤 幸望



卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

いつも学友会の活動にご理解とご協力を頂き、本当にありがとうございます。今年度、学友会は組織作りに力をいれて活動してきました。先輩方が整えてくださった基盤をもとに、各係とその役割を明確にすることで、スムーズに仕事をすることができるようになり、それぞれが責任感を持って取り組むようになりました。また、仕事の幅も広がり、新たな取り組みも行えるようになってきました。

そして今年度は、学友会が主体となり伍桃祭を運営するという、大きな挑戦の年でもありました。伍桃祭に関しては、ほとんどの学友会員が未経験のなかで企画を始め、何度も話し合い、準備を重ねていきました。様々な不安の残る中で当日を迎えましたが、大きなトラブルもなく、無事に成功を取ることができたことは、学友会にとって大きな自信に繋がりました。

学友会長としてこの1年を振り返ってみると、学友会が組織として機能し始めたと感じます。それはまだまだ発展途上ではあります

が、今整いつつある基盤を崩すことなく、先輩から引き継いだ良いものを、自分たちの手でさらに良いものへと変えてゆくことで、もっと活気のある学友会へと進化してゆくのだと思います。

学友会は、みなさんと一緒にこの新潟医療福祉大学を盛り上げ、より良い大学にしてゆくために活動してゆきます。しかし、これは皆様のご理解とご協力無しには成し得ないことでもあります。これからも、どうか学友会を温かく見守ってください。また、お近くまで来られた際にはぜひ足を運んでいただきたいと思います。



第9回伍桃祭報告

第9回伍桃祭実行委員長 社会福祉学科2年 桐山 渉



今年の伍桃祭のテーマである、「SMILE～笑う門には福来たる～」には、不況と呼ばれるこの時代に、笑っていれば、幸せになれるという意味が込められていました。そこで、今年の伍桃祭では、社会全体で笑顔になるために、地域との交流を意識的に考え企画しました。

地域交流のイベントとしては、地域参加型のフリーマーケットや近隣の小中学校の吹奏楽部による演奏、各種団体による出店、本学の学生と近隣の小中学生によるスポーツ交流イベント等があり、多くの地域の方にご来場していただきました。今後この活動が発展していき、より地域密着型の伍桃祭になってほしいと思いました。

さらに、テーマである「SMILE～笑う門には福来たる～」に合わせて、笑顔になれるイベントをより多く取り入れていきました。よしもと芸人による「おでかけLOTS the よしもと」や8学科それぞれの学科パフォーマンス、SMILEアワーと称した二人羽織早食い大会や男装・女装コンテストは非常に大きな盛り上がりを見せました。他にも、倉井夏樹さんと酒井杏さんによる演奏や新潟出身のユニット「カナデフウビ」さんによる演奏、ビンゴ大会等、イベント盛りだくさんの伍桃祭にな

りました。

伍桃祭当日、1日目は残念ながら朝から雨だったため、体育館特設ステージでしたが、体育館がいっぱいになるほどの方に来場していただきました。そして2日目には晴れ、多くの方に足を運んでいただきました。4年生の方には司会をしていただいたり、学祭を盛り上げていただき、今までに負けないうくらい素晴らしい伍桃祭になりました。

最後になりましたが、無事伍桃祭を終えることができたのも、学生や教職員の方々をはじめ、地域の方々や企業の方々など、多くの方にご協力をしていただいたおかげです。何よりも、一緒に企画・運営してくれた学友会・伍桃祭実行委員に感謝致します。本当にありがとうございました。



新同窓会役員紹介

平成21年度卒業 理学療法学科 猪又一志



窓の話でもしょうか。某コマーシャルより。

同じ窓の景色を見て学んだから、同窓。4年間この大学で何気なく過ごして来たけど、その何気ない毎日の中で何回窓の外の景色を見たのかな。授業中、ぼーっと外を眺めることが多かった気がする(しっかり勉強もしていました)。窓の外なんか見ずにスライドを真面目にノートに写していた仲間もいたけど、彼らも授業が終わると外の景色を見て「傘忘れた」とか言っていたと思う。これからも、この同じ窓の空間で多くの学生が学んでいくのだな～。こんな事をふと考えていました。

第6期同窓会役員となりました、理学療法学科の猪又一志です。

この先も在学生がよりよい学生生活を送ることが出来るよう、4年間の経験や知識、そして社会に出て学んだことなどを提供していきたいです。新潟医療福祉大学のさらなる飛躍のため、精一杯努めていきます。よろしくお願いします。

平成21年度卒業 理学療法学科 小林賢司



この度、首都圏支部の理学療法学科同窓会役員を務めさせて頂くことになりました小林賢司です。首都圏支部は数年前にできたばかりで、多様に発展させていくことが出来そうな支部だと思うので、とてもやりがいを感じています。

私は、在学生への情報の提供の充実はもとより、首都圏にいる同窓生が交流しやすくなるような環境を作ることに力を注ぎたいと思います。例えば、本学の東京キャンパスで、文献などの取り寄せが出来るようにして、多くの同窓生が自然に東京キャンパスへ足を運ぶ機会を増やし、いろんな学科の人が集まって近況を報告し合う、本学の図書館のような交流の場を作れたら良いなと思います。

「We are all one～私達はみな1つ私達はお互いに響き合っている～」という言葉に胸に同窓会から本学へ、本学から日本へ、日本から世界へと良い影響の連鎖を起こせるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

平成21年度卒業 作業療法学科 渡邊まどか



今年度、作業療法学科同窓会役員となりました渡邊まどかです。私はこの大学で過ごした4年間、多くの友人や先生方とともに学び、様々な経験をする中で有意義な学生生活を送ることができました。同窓会役員の仕事は私たち卒業生が実際に働いている職場の内容、環境や卒業後の状況に関する様々な情報を在校生に向け発信することで、後輩達の将来をよりよい方向へサポートしていく大切な仕事を担っていると思います。今後はこの大学で学んだことを活かし、先輩方や他学科の役員と連携を大切にしながら同窓会役員として在校生や大学間の橋渡しとなるよう、責任感の役割をできる限り精一杯こなしていきたいと思っています。

平成21年度卒業 作業療法学科 吉田裕登



今年度の作業療法学科同窓会役員となりました吉田裕登です。

私はこの大学で多くの友人や尊敬する先輩、先生方とともに過ごすことができ、とても充実感に満ち溢れた楽しい4年間を送ることができました。この新潟医療福祉大学で過ごしてきた日々の一瞬一瞬は心のフィルムに刻まれ、私の一生

の財産になっていくと思います。

この大学で得たこと、社会に出て学んだことを後輩達に伝え、職場の近況報告や就職・実習などのアドバイスをすることで、後輩達がより良い大学生活を送れるよう努めていきたいと思っています。

卒業後は、他学科の同窓会役員や在校生との橋渡し役としてできる限りの努力をしたいと思っていますので、皆様にご協力をお願いする際はよろしくお願ひします。

平成21年度卒業 言語聴覚学科 小山里美



この度6期生の同窓会役員となりました、言語聴覚学科の小山里美です。

私が過ごした新潟医療福祉大学での4年間は大変楽しく、また充実した時間でした。それは多くの友人、尊敬する先生方に出会い、支えていただいたことにあると思います。また多くの学びもあり、これから社会に出ていくなかで自分を支える何かを得たような気がします。

同窓会役員をやらせていただくにあたって、在校生の皆さんに卒業後の状況を伝えたり、職場の現状や内容などの情報を提供することで、卒業生と在学生の繋がりを持てるようお役に立てれば良いなと考えています。できる限りの仕事を行い、頑張っていこうと思います。今後ご協力を求めることがあると思いますが、その際はどうぞよろしくお願いします。

平成21年度卒業 言語聴覚学科 本田一輝



私は在学中に、言語聴覚に関係する基礎・専門科目の学習や臨床実習など様々なことを学びました。その他にも、課外活動としてボランティアやサークル活動などにも参加し、大学生生活はとても充実していました。

その中でも最も印象に残っているものは臨床実習です。臨床実習では、学内で学んだ知識を基に沢山の検査や評価を行わせていただきました。

実際の臨床場面を経験することで、学んだ知識を明確に理解することができました。その他にも、人とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができ、とても充実した実習を受けることができました。この貴重な実習を経験することができたのは環境調整をしていただいた大学関係者皆様の協力があったからだと思います。同様に学生生活を充実にご過ごすことができたこともその為だと思います。

それらのことを忘れないように同窓会役員として、私にできることを行っていきます。よろしくお願いします。

平成21年度卒業 健康栄養学科 星野広樹



この度、6期生同窓会役員を務めさせていただき、星野広樹です。

新潟医療福祉大学で学んだことは多く、何よりも数多くの仲間たちと出逢えたことは、私にとって一番の宝物となっています。この4年間で築き上げた“絆”を絶やすことなく、また在学生の方々、これまでの卒業生の方々、そして支えてくださった先生方と密に連絡を取り合いながら、より一層関係を深めていきたいと考えています。

同窓会は役員だけのものではなく、新潟医療福祉大学に関わる皆様のものです!皆様の積極的な参加を期待しています。一緒に同窓会を盛り上げ、これからも色あせることのない“絆”を一緒に築き上げていきませんか??

平成21年度卒業 健康栄養学科 内藤 舞



この度、健康栄養学科の同窓会役員となりました内藤舞です。

本学で尊敬する先生方や先輩方、素晴らしい仲間と囲まれて充実した大学生活を送ることができました。また、本学での出会いや経験から得たことは社会人の基礎となり、自分の支えとなると感じています。卒業を迎える今、本学で4年間過ごせたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は同窓会役員として、卒業生の皆様には、それぞれ別の道を歩んでいてもつながりをもてるようし、在学生の皆様には、卒業生の卒業後の状況や現場の職務内容など様々な情報を提供できるように努めていきたいと考えています。

6期生の皆様には何かと依頼することがあるかと思いますが、よろしくお願ひします。

平成21年度卒業 健康スポーツ学科 飯田 康紀



この度、健康スポーツ学科同窓会役員となりました飯田康紀です。新潟医療福祉大学の4年間で多くの仲間との出会いがあり、その仲間と勉強に励んだり、部活動に汗を流したりとたくさんの経験をしました。その結果とても充実した内容の濃い大学生活を送ることができました。これから続く後輩達にも充実した学校生活を送ってもらうために、卒業生としてできる限りのサポートをしていきたいと思っています。

また私の在籍した健康スポーツ学科は自分たちが第2期生であり、卒業後の情報提供が他学科に比べ少ないと思います。実際の職場の職務内容や雰囲気などといった情報を提供することで、在学生と卒業生の情報交換を密にする橋渡しができればと考えています。そのために6期生の皆さんの力が必要になると思いますが、そのときはよろしくお願ひします。

平成21年度卒業 健康スポーツ学科 真岸 憲一



この度、健康スポーツ学科第6期生同窓会役員になりました真岸憲一です。同窓会役員の仕事は、卒業生と在校生をつなぎ、大学生活で学んだこと、経験したことや社会にでてからの情報などを共有し、在学生の大学生活やその後の進路に至るまで少しでも役に立てるように努めることです。

このような重要な仕事を任せられた以上、在学生が在学中の生活、卒業後の進路がよりよいものとなるように、自分の役割を精一杯果たせるよう努めていきたいと思っています。

新潟医療福祉大学の伝統を守りつつ、さらなる発展に及ぼすながら助力していきたいと思っています。

平成21年度卒業 看護学科 渡邊 淑恵



この度、看護学科の同窓会役員となりました、渡邊淑恵です。

私はこの大学で4年間を過ごし、多くの人と出会い、多くのことを学び、人間的に成長でき、とても充実した日々を送ることができたと思っています。私達看護学科は1期生ということもあり、何もかもが初めての連続でした。しかし、周りの方に支えられてここまで送ることができました。今度は卒業生として在校生やこれからこの大学に入る方などに今までの私たちの経験やこれからの職場でのことなどを情報として提供し、役に立てたらと考えています。

平成21年度卒業 看護学科 久保 裕子



この度同窓会委員をやらせていただくことになりました、看護学科の久保裕子です。

入学式を終えてからの大学の4年間は、あっという間でした。看護学科は私たちの代が1期生であったので、わからないこともたくさんありました。しかし、その分みんなで協力をしたり、先生方や他の学科の方たちから助けていただいたので、すごく充実した忘れられない学生生活を送ることができました。卒業をして社会人になっても、この学生生活で得たものを活かしてさらに成長していきたいと思っています。

卒業生や後輩のみなさん、そして大学とのすてきな繋がりが続いていくように、同窓会委員のみなさんと協力していきながら、楽しく頑張っていきたいと思っています。初めてのことなので至らない点もあると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

平成21年度卒業 社会福祉学科 吉岡 直也



第6期生同窓会役員になりました社会福祉学科の吉岡直也です。新潟医療福祉大学では様々な学部との連携の下に学ぶ環境があり、大学内だけでなく地域とのかかわりを多く持つ場所でもあります。ここで学んだことは専門職でももちろん、多方面でも生かすことができると私は思います。私自身が専門職とは少し離れた進路先ですが、「福祉」という言葉を胸に、この新潟医療福祉大学での経験や知識を卒業生の一員として恥じないように生かして行きます。

今回同窓会役員として先輩や後輩、未来の新潟医療福祉大学生との架け橋となり情報提供を行うだけでなく新潟医療福祉大学が更に発展して行くように努めたいと思います。時代の変化により状況や対応などは変わるものです。こうした状況下の中でも同窓会という会を通し、新潟医療福祉大学の伝統を築き上げていきたいと思っています。とても責任ある役のため、役員だけの力では難しいので第6期生社会福祉学科約140名の皆様のご協力なにとぞよろしくお願ひします。

平成21年度卒業 社会福祉学科 堀 友美子



この度、第6期生の同窓会役員になりました社会福祉学科の堀友美子です。新潟医療福祉大学では、新しい友達に囲まれ充実した学生生活を送ることができました。社会福祉学科の授業と介護福祉コースの授業を同時に学ぶのは少しハードではあったのですが、多くの現場実習などからたくさんのことを学ぶことができました。

4月から介護福祉士として働いていくなかで、私が目標とすることは「高齢者と共に生きる意味を見つける」です。小さな楽しみでも生きがいに繋がっていくのではないかと私は考えます。

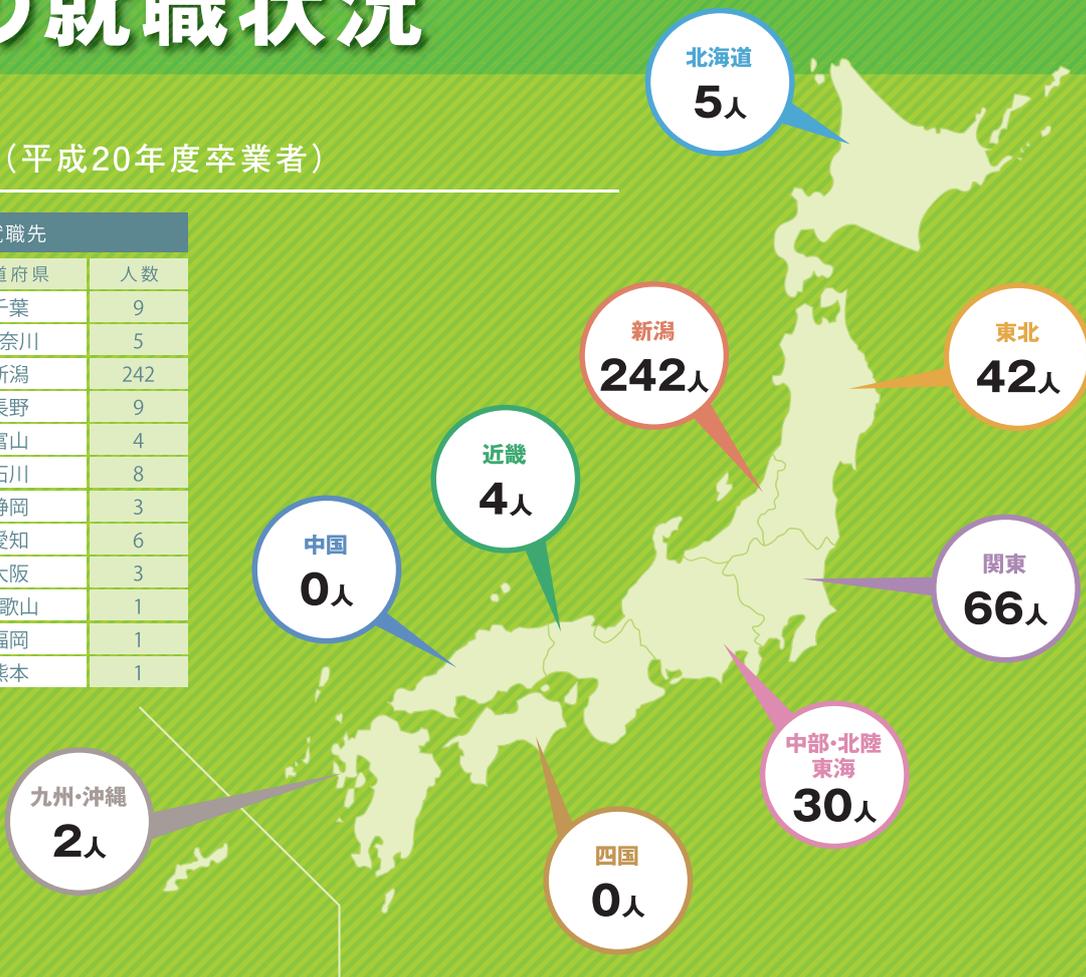
同窓会役員として社会にでて学んだことや経験してきたことなど、できる限り後輩達に情報提供をしていけたらと思います。

同窓会役員になったからには、自分のできることを責任もって精一杯頑張っていきたいと思っていますのでどうぞよろしくお願ひします。

卒業生の就職状況

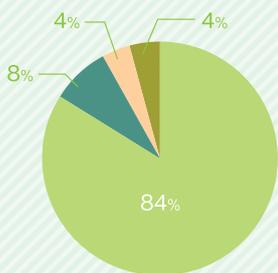
地域別就職者 (平成20年度卒業生)

平成20年度生県別就職先			
都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	5	千葉	9
青森	1	神奈川	5
秋田	2	新潟	242
岩手	1	長野	9
宮城	2	富山	4
山形	12	石川	8
福島	24	静岡	3
栃木	7	愛知	6
茨城	3	大阪	3
群馬	10	和歌山	1
埼玉	11	福岡	1
東京	21	熊本	1



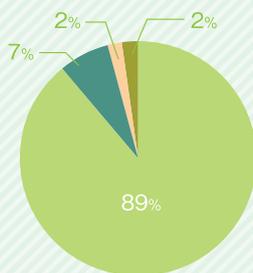
理学療法学科

- 病院
- 国立病院
- 老人保健施設
- 診療所・クリニック



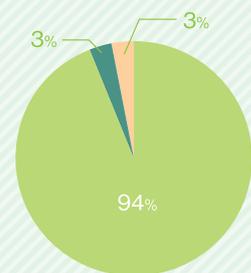
作業療法学科

- 病院
- 老人保健施設
- 国立病院
- 大学病院



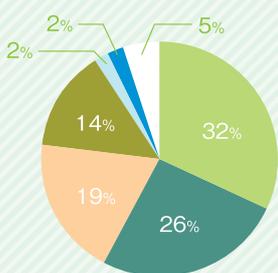
言語聴覚学科

- 病院
- 診療所・クリニック
- 一般企業



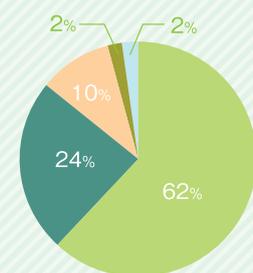
健康栄養学科

- 委託給食会社
- 食品関連企業・薬局
- 医療・保健施設
- 公務員・学校
- 福祉施設
- 進学
- その他



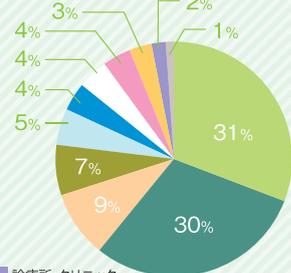
健康スポーツ学科

- 一般企業
- 公務・団体
- 診療所・クリニック
- 高齢者福祉施設
- 福祉企業



社会福祉学科

- 一般企業
- 高齢者福祉施設
- 病院
- 障害者施設
- 福祉系企業
- 公立福祉施設
- 児童施設
- 公務・団体
- 老人保健施設
- 診療所・クリニック
- 社会福祉協議会



医療法人

(医)愛広会/(医)社団愛心会湘南鎌倉総合病院/(医)社団葵会千葉・柏リハビリテーション病院/(医)葦の会石井クリニック/(医)アレックスメディカルグループ上田整形外科クリニック/(医)社団五十嵐整形外科医院/(医)仁会中村記念病院/(医)板橋中央総合病院グループ/岡田整形外科クリニック/かえで接骨院/(社会医)社団カレスサポロ時計台記念病院/(医)輝生会初台リハビリテーション病院/(医)社団輝生会船橋市立リハビリテーション病院/(社会医)きつこう会/(医)社団共生会中条中央病院/(社会医)桑名恵風会桑名病院/(医)敬愛会天草リハビリテーション病院/(医)社団圭春会小張総合病院/(医)源守会会田記念リハビリテーション病院/(医)社団健進会新津医療センター病院/(医)健友会本間病院/(医)財団健和会柳原リハビリテーション病院/(医)公德会佐藤病院/(医)齋藤記念病院/(医)三愛会埼玉みさと総合リハビリテーション病院/山王鍼灸整骨院グループ長原鍼灸整骨院/(医)社団三思会くすの木病院/(医)社団紫雲会紫雲会千葉南病院/(社会医)財団慈泉会相澤病院/(医)積栄堂富永草野病院/(医)社団昌医会葛西循環器脳神経外科病院/(医)秀公会あづま脳神経外科病院/(医)樹心会角田病院/(医)潤生会阿賀野病院/(医)潤和会札幌ひばりが丘病院/特定(医)順和長尾病院/(医)常心会川室記念病院/(医)仁会会中澤整形リハビリクリニック/(医)新成医会総合リハビリテーションみどり病院/(医)社団鎮誠会東金整形外科/(医)仁会会とやの中央病院/(医)社団真療会野田病院/(医)崇徳会田宮病院長岡西病院/(医)社団晴和会黒崎病院/(医)社団扇翔会南ヶ丘病院/(医)創生会真岡中央クリニック/(医)泰庸会新潟脳外科病院/特定(医)社団高橋病院/(医)社団竹内会介護老人保健施設ヴィラ菅谷/(医)立川メディカルセンター柏崎厚生病院/(医)立川メディカルセンター悠遊健康村病院/(医)直志会袋田病院/つつみ整形外科/(医)鶴谷会鶴谷病院/(医)社団東光会戸田中央総合病院/(医)島門会本島総合病院/(医)徳真会/戸田中央医科グループ/(医)豊田会刈谷豊田総合病院/(医)新潟勤労者医療協会下越病院/(医)新潟臨港保健会新潟臨港病院/(医)日望会みどり病院/ひまわり鍼灸接骨院/野口整形外科/(社会医)博愛会菅間記念病院/(医)博仁会志村大宮病院/(医)白水会白川病院/(医)社団白美会白根大通病院/(医)社団白美会西蒲メディカルセンター病院/(医)社団博友会金沢西病院/(医)社団日高会日高会グループ/(社会医)福島厚生会福島第一病院/(医)抱生会丸の内病院/(医)社団北水会北水会病院/ほんま整形外科/(医)松田会松田病院/(医)美郷会西蒲中央病院/(医)社団翠十字会砺波誠友病院/南東北病院グループ南東北春日リハビリテーション病院/みやぎ県南中核病院/(医)明和会中通リハビリテーション病院/(医)社団山形愛心会庄内余目病院/(特定医)有隣会東大阪病院/(医)社団らぼー新新潟染いちデイサービス/(社会医)嵐陽会三之町病院/(医)社団緑愛会川西湖山病院

社団法人

(社)石川勤労者医療協会城北病院/(社)新潟県労働衛生医学協会附属岩室温泉病院/(社)全国社会保険協会連合会岐阜社会保険病院/(社)全国社会保険協会連合会東北厚生年金病院/(社)山梨勤労者医療協会甲府共立病院

財団法人

(財)太田総合病院/(財)温知会会津中央病院/(財)上村病院/(財)熊本市社会教育振興事業団/(財)健康医学予防協会/(財)三友堂病院/(財)仁泉会医学研究所北福島医療センター/(財)竹田総合病院/(財)新潟市開発公社/(財)新潟市体育協会/(財)北陸体力科学研究所スポーツコミュニティダイナミック/(財)黎明郷弘前脳卒中センター

社会福祉法人

(福)愛宕福祉会/(福)いじみの福祉会コンフィ陽だまり苑/(福)茨塚福祉会/(福)魚沼更生福祉会特別養護老人ホーム八色園/エビハラグループナーシングヴィラハートフル鴨川/(福)恩賜財団済生会済生会新潟第二病院/(福)恩賜財団済生会支部栃木県済生会宇都宮病院/(福)カリタス会児童養護施設聖園愛児園/(福)輝雲会すくすくステーション愛川手まり学園/

(福)享誠塾/(福)光風会/(福)桜井の里福祉会/(福)恩賜財団済生会支部新潟県済生会三条病院/(福)坂井輪福祉会/(福)佐渡寿福祉会特別養護老人ホーム真野の里/(福)黄育会特別養護老人ホーム豊野清風園/(福)慈仁会特別養護老人ホーム星風苑/(福)秀峰会/(福)上越市社会福祉協議会/(福)上越老人福祉協会特別養護老人ホームいなほ園/(福)白河学園/(福)仁成福祉協会/(福)聖隷福祉事業団/(福)太陽福祉会/(福)あいの会/(福)天使園児童養護施設今井城学園/(福)富山県社会福祉総合センター/(福)とよさか福祉会/(福)とんぼ倶楽部デイサービスセンター赤とんぼ/(福)苗場福祉会/(福)長岡三古老人福祉会/(福)新潟市社会事業協会介護老人保健施設あかつか苑/(福)新潟慈生会地域生活支援センターぐみの郷/(福)のぞみの家福祉会/(福)人と緑の大地/(福)豊豊福祉会/(福)もぐらの会身体障害者授産施設ポプラの家/(福)毛呂病院/(福)ゆうい会

学校法人

NSGグループ/(学)新潟総合学園新潟医療福祉大学/(学)大彦学園開志学園高等学校/(学)埼玉医科大学埼玉医科大学国際医療センター/日本大学三島高等学校

公務員・組合・独立行政法人・NPO法人

新潟県医療技術職員(県立病院勤務)/新潟市職員(福祉行政)/新潟県立新発田病院/新潟県立特別支援学校寄宿舎/新潟県臨時的任用職員/新潟市役所/聖籠町役場/出雲崎町役場/若手職員(県立病院勤務)/川口市立医療センター/川崎市職員/警視庁/(独)国立病院機構関東信越ブロック/(独)国立病院機構西新潟中央病院/鶴岡市職員(市立病院勤務)/ながおか医療生活協同組合/長野県厚生連鹿教湯温泉病院/長野県厚生連松代総合病院/防衛省自衛隊新潟地方協力本部/利根保健生活協同組合利根中央病院/新潟県厚生農業協同組合連合会/新潟みらい農業協同組合/越後さんとう農業協同組合/十日町農業協同組合/新潟県醤油協業組合/静岡県厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院/トヨタ生活協同組合/魚沼市立広神小学校/新発田市立菅谷小学校兼赤谷小学校/長岡市立東北中学校/新潟県立新発田農業高等学校/新潟県立新津高等学校/新潟市立山田小学校/湯沢町立湯沢小学校/和歌山県立和歌山北高等学校/NPO法人総合型地域スポーツクラブハピスカとよさか

株式会社・有限会社

(株)アークベル/(株)アルディーシー(RDC)/(株)アクトス/アサヒアレックス(株)/味の素(株)/足立成和信用金庫/アルフレッサ(株)/HLS(株)/(株)エル・クリエート/越後プロパン(株)/大阪ガス(株)/(株)奥山商店/(株)カワチ薬品/(株)共育舎/(株)くすりのアオキ/(株)メディセオ/(株)KCC/(株)コメリ/コンピュータロン(株)/佐川急便(株)/(株)三幸/(株)さんぼう/(株)ジェイマックソフト/ジェイメディカル(株)/(株)ジャストドラッグ/(株)シリウス/(株)シルバーサポート/(株)スズキ自販新潟/(株)星光堂薬局(ドラッグトップス)/セコム上信越(株)/(株)創栄/(株)総合フードサービス/(株)大建建設/(株)大光銀行/中越クリーンサービス(株)/中越運通(株)/(株)ツクイ総合福祉ツクイ女池/(株)津山商店グループ/(株)ツルハ/(株)東急リゾートサービス/(株)トップカルチャートヨタ自動車(株)/(株)新潟スポーツプロモーション/トヨタ部品新潟共販(株)/(株)ドリームハート/(株)ナレッジライフ/新潟総合警備保障(株)/日清医療食品(株)中部支店/野川商事(株)/(株)はあとふるあたご/バイオテックジャパン(株)/原信ナルスホールディングス(株)/(株)東日本福祉経営サービス/東日本旅客鉄道(株)/ビッググループ冠婚葬祭互助会/(株)ファイブフォックス/福岡総合警備保障(株)/富士産業(株)/富士ゼロックス福島(株)/(株)ブランチ/(株)マックス/(株)丸紅エネルギー/(株)マルハン/(株)ミールケア/三國コカ・コーラボトリング(株)/ミサワホームイング新潟(株)/(株)村山/(株)UCO/ユニー(株)/(株)ヨドバシカメラ(株)米三/リコー販売(株)/(株)レオックジャパン/(株)レッドバロン/新潟信用金庫/住友生命保険相互会社/(有)エンドウ商会/(有)坂爪ホンダ販売(ホンダカーズ新津)/(有)ティーエスエスアソシエイツ/(有)ビーファースト

クラブ活動報告

サッカー部



平成21年12月20日(日)熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて、全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)新潟医療福祉大学vs駒澤大学の試合終了のホイッスルが響き渡る。試合は前半2-0、後半2-0と名門駒澤大学に0-4の完敗。このホイッスルは、4年生にとって大学サッカー最後のホイッスルでもあった…

創部4年目の昨年度、インカレ初出場を果たしたサッカー部。今大会も連続出場とあっては、地元メディアに「2年連続インカレ出場!」や「創部5年で北信越に強豪校確立!」などと取上げられた。しかし過去を振り返ってみると、インカレ連続出場は決して楽な道のりではなかった。練習場所の問題。練習時間の問題。活動経費の問題。新入部員とのコミュニケーションの問題… 問題はいくつでもあった。しかし今までそうであったように、解決策を見出すことに集中した。4年生が昨年度の成功を自信にリーダーシップを発揮した。私もいつも通りに、4年生にも朝練習を誘うなど、部員には最大限のことを求めて展開した。

私は部員が成長しているのか、そうでないのか正確に把握することが難い。4年生と一緒に時間を過ごしている。毎日毎日練習し、その「毎日」の延長上にインカレ連続出場があったのならば、競技面においては成長したと言えるのかもしれない… 部員は素晴らしい記録を打ち立てた。しかし部員にはインカレに出場するよりもっと大切なことがあると投げかけているつもりだ。学生スポーツであっても、競技をする以上、勝つことはとても重要だ。プロの世界でもアマチュアの世界でも、当然、勝ち負けに注目が集まることは否定できない。問題はすべて(常に)勝つ

ことは不可能ということだ。その時に真価が問われるのだ。

サッカー部はインカレ連続出場を果たし、これを自信に変え成長しなければならぬ。それには部員が色々な個性があった上で、同じ目標や同じ考え方を持っている集団になることが課題だ。またその集団の質を高めなければならない。インカレ連続出場は危険でもある。「また出場できるだろう…」や「これさえやれば…」など、現状に満足することや最低限のことしか取り組まないことが成長を妨げる。相手に勝って自信を持つ。これではもう不十分なレベルにきていることをしっかりと捉えなければならない。重要なことは他人の評価であり、サッカー部が仲間からどのように捉えられているか!そういう意味では「卒業生」の方がこれから社会にその立場を定着させ、より一層成長するのかもしれない… 卒業おめでとう!

監督 秋山 隆之



陸上部

平成21年度陸上競技部の活躍は、日本学生対抗選手権において昨年に続き2年生の土田翔太君が円盤投げで6位入賞という立派な成果を出しました。土田君は円盤投げの北信越陸上学生記録保持者でもあります。長距離ブロックでは全日本大学駅伝選手権大会予選会で男女総合3位、そして出雲全日本大学選抜駅伝北信越学連選抜チームに中澤翔君4年生、牛木陽一君2年生が、また、全日本大学女子選抜駅伝北信越学連選抜チームに堀内曜子さん3年生、柴澤真南美さん1年生がメンバーとして疾走しました。その他にも秋季北信越学生では、桑野沙紀さん2年生が100mHで、小林梨奈さん2年生がやり投げでともに優勝し、また多くの部員が上位入賞しています。陸上競技部は創

部5年目という新しい部ですが、全国レベルで活躍できる部員や、地区大会で優勝する部員も出てきております。

陸上競技部は、全国の大学生と伍して戦いができるように競技力向上に向けて日々切磋琢磨しております。部員は個々の目標の達成だけでなく、指導者として選手を指導できる知力と指導力を身につけることを目標にしていることです。私たち監督・コーチはきめ細やかな指導ができるよう指導スタッフを充実させ、この陸上競技部から全国で活躍できるような選手を多く輩出し、陸上競技を通じ立派な社会人につよう教育、指導ができる体制を取っています。

監督 丸山 敦夫



土田君
日本学生円盤投げ
6位の投擲



中澤君
北信越学生
5000m優勝

水泳部

2009年度、水泳部は創部5年目をむかえ、女子が関東学生選手権1部総合5位で1部残留を決めました。一方、男子は同大会2部で総合2位となり、ついに初の1部昇格となりました。個人では、郡山奈々(4年)が日本学生選手権(全日本インカレ)800m自由形で5位入賞を果たしました。また、国民体育大会や全国障害者スポーツ大会のサポート、中国黒龍江省水泳チームとの合同練習など、「水泳」を通じ「競技」だけでなく「ボランティア活動」や「国際交流」も行なってきました。

チーム全体としては、昨年度まで「新設で勢いのあるチーム」として多くの関係者の方々から評価をいただいていたと思いますが、一期生卒業後の今年度、これらがチームとして真価を問われるという意味で「新しいスタートの年」と考えていました。そこで、水泳部員たちには、常々、「やるからにはとことん本気で取り組もう」「チーム目標を達成するため、自分の役割を考えて行動(練習)しよう」という2つのことを話してきました。これらのことは、大学卒業後、社会に出て組織の一員となったときに必要になってくる能力だと信じています。卒業する部員たちには、このNUHW水泳部で培ったことを忘れずに社会に出ても精一杯頑張ってくださいと思っています。

新潟医療福祉大学水泳部は「認めあい、支えあい、

競いあうチーム」「多くの人から応援されるチーム」という2つのチーム理念を掲げ、これからも日々精進していきたいと思っております。

日々の活動報告を以下で紹介していますので是非、ご覧ください。

<http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>

卒業おめでとう!そして、4年間ありがとう。

監督 下山 好充

郡山 奈々さん
全日本インカレ800m自由形 5位 入賞



関東学生選手権水泳競技大会	男子2部総合2位(1部昇格)	
日本学生選手権水泳競技大会	800m自由形5位	郡山 奈々
国民体育大会競泳競技	成年男子200mリレー2位	駒形 進[新潟県代表]
国民体育大会競泳競技	成年女子400mメドレーリレー6位	奈良 梨央[新潟県代表]
湘南オープンウォーター大会	10kmの部2位	井口 絵里加

本学男女バスケットボール部は、大学強化クラブに指定され(H17年度)本格的に強化を始めた当初から、全国および県内のバスケットボールファン、関係者に注目されてきました。

今年度は、北信越学生バスケットボール春季リーグ戦(福井県)で女子は1部リーグで圧倒的な強さで4戦全勝し2年連続優勝しました。男子は2部で圧倒的な強さで4戦全勝優勝し1部へ昇格しました。また、男子は甲信越学生バスケットボール選手権(6月)で、男子北信越春季1部リーグの強豪校の信州大を決勝で破り、2年連続で優勝しました。女子も初優勝しました。

北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選で女子は全勝し3年連続全勝優勝、4年連続4回目のインカレ出場を果たしました。インカレでは初戦、東海地区1位の愛知学泉大と対戦しました。前半は粘り強いディフェンスが効果的に働き善戦しましたが、後半ミスが重なり自分達のバスケができず、敗退しました(愛知学泉大は準優勝)。男子は2年連続優勝を狙いましたが、予選トーナメントでまさかの敗退、2年連続のインカレ出場を逃しました。

今年度も男女とも県内外から強力な新戦力となる新入生が入学し、意識の高い練習と練習方法もさらにレベルアップしました。その練習に耐え、努力した結果が、各種大会で上位入賞ができていますのだと思います。来年度は男女でインカレ出場し、男女で初戦突破を目標に日々精進していきたいと思っています。最後に男女バスケットボール部のために保護者の皆様方、大学関係者、卒業生の方々から

多くのご声援とご協力を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

監督 高沢 文隆

2009年度主な戦歴

男	北信越学生春季リーグ戦2部	優勝	1部昇格
男	甲信越学生バスケットボール選手権大会	優勝	2年連続
子	新潟県バスケットボール選手権大会兼全日本総合県予選会	準優勝	
子	新潟県学生バスケットボール選手権大会	優勝	4年連続
女	北信越学生春季リーグ戦1部	優勝	2年連続
女	新潟県バスケットボール選手権大会兼全日本総合県予選会	準優勝	
子	北信越学生バスケットボール選手権大会兼インカレ予選	優勝	3年連続
子	新潟県学生バスケットボール選手権大会	優勝	3年連続



バスケット部



今年度のレクア.コム部は、各役員たちと意見交換を行い「自己実現」という目標を提示しました。私たちはボランティア活動のみを行う団体ではありません。日々の生活では関わることのできない地域の人や、障害をもつ方たちとの交流を

図り、貴重な「体験」と「スキル」を養うことで各役員が持つ、将来像への自己実現(成長)を行っていくという目標です。また「活動の種類が多くよくわからない。」という部員の意見があり、今年度は活動の幅を広げるのではなく、以前から行ってきた児童福祉、障害者福祉等に力を注ぎました。また「高齢者福祉はないのですか?」という意見もあり現在では2つの福祉施設でのボランティア活動を行いました。自分たちが望む貴重な体験は、児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉などの活動を主に、また北区に住む地域の方々との交流も展開していくことが大切です。さらに、「依頼されたことは何でもやる」といった部活ではなく、部員たちがどう考えているのか、どんなふうに「成長」していきたいのかなどの、活発な「意見交換」が必要だと感じました。

主な活動のなかで、子どもたちとの交流が盛んに行われました。海辺の森のサマーキャンプでは、複数の小学校から子どもたちの参加で年々以上に盛り上がる事ができたと思います。部員たちが子どもたちの自由な発想に接することで心を養うことができ、さらに子どもたちが安全に楽しむことができるための良い緊張感と責任感も感じる事ができました。また障害者福祉や高齢者福祉では夏祭りやハロウィン、クリスマスなどのイベントを通して、コミュニケーション能力向上や排泄介助、車いす介助などの技術を養う事ができました。今後も「自己実現」を目標に「意見交換」と、貴重な「体験」と「スキル」を養っていききたいと思います。

理学療法学科3年 佐藤 隆博

レクア.コム部

ご卒業を迎えた第6期の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

入部してから先輩方から学生kidsの活動について一から教えていただきました。また力不足ながらの部長でしたが先輩たちに支えられ、こうして活動報告ができることを嬉しく思っています。

学生kidsの活動は季節ごとのバーベキュー・伍桃祭・クリスマス会・研修旅行などの交流会とサロンで行うサロン交流や勉強会などがあります。中でも6月に行ったバーベキューでは、あいにくの雨でいきなりの場所を変更となり2年で計画する初めての交流会で不安でした。でもそんな時に先輩方のかけてくれた「出来る場所で、全力で楽しむ」の言葉やメリハリのある行動、そして的確なアドバイスにみんな助けられました。会員一人ひとりの事をしっかり見てそして学ぶことが笑顔で楽しい交流をする上で大切になること、その場限りの関係ではなく活動を通して築かれていく絆という大切なことも教えてもらうのではなく部員が自分の目で、耳で感じて学ぶことができました。

しかし嬉しい悩みではありますが年々学生の数が増え、今までの先輩方のように会員一人ひとりととの交流の時間が減ってきています。ですが今後この人数の



多さや学科、学年の幅の広さを生かしてもっと大きな組織として活動していきます。そして今まで先輩方の築いてきた学生kidsの会員と交流を通して自然に生まれる絆、そして学生kidsが「大好きだ!!」という気持ちを受け継いで頑張りたいと思います。いつでもkids・サロンに遊びに来てください。

社会福祉学科2年 木澤 汐美

学生kids

大学院

新潟医療福祉大学 医療福祉学研究科

+αの高度専門職を目指しませんか？

第6期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして既にご卒業された皆さん、お元気ですか？早いもので本学も次年度が開学10周年目となり、全国で多くの卒業生が活躍されていると思います。

さて、複雑化する社会・医療制度、深刻化する医師不足など保健・医療・福祉分野は現在大きな転換期をむかえています。本学大学院では、このような状況に正面から向き合い、科学的根拠に基づいた問題解決のできる高度専門職の養成に力を入れております。また、在籍院生の約6～7割が社会人のため、社会人の方には特に授業面で柔軟に対応しております。

臨床・実務経験のみだけでなく、研究成果を現場に還元のできる+αの高度専門職を目指してみませんか？ 新潟医療福祉大学大学院は学びたい卒業生のみなさんを全面的にバックアップします！

■充実の制度

- 卒業生の場合、入学金が**半額(10万円)免除**。
- 平日の授業は18時10分からスタート。土曜日・集中授業もあります。
- 長期履修生制度あり。(修士:3年・4年、博士後期:4年・5年・6年)
- 修士課程は**教育訓練給付金指定対象**。(修士修了後、**申請者に10万円の補助金が支給**されます)
- 各種奨学金制度あり。(いずれも定員があります)
 - ・**大学院無利子貸与奨学金制度を新設(学費の全額が半額を無利子にて貸与)**
 - ・特別奨学金(卒業生対象。年間15万円～20万円を給付)
 - ・修学援助奨学金(2年次に15万円～20万円を給付)



*資料請求やお問い合わせは本学入試事務室まで。 TEL:025-257-4459、FAX:025-257-4456、E-mail:nyuusi@nuhw.ac.jp

1期生～3期生の方へ同窓会費納入のお願い

同窓会活動に必要な運営費は、会員の皆様からの会費でまかなわれておりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

■1期生～3期生: 会費を納入されていない方は、下記のいずれかの方法で納入をお願いいたします。すでに終身会費(20万円)を一括納入された方は、お振込されないようご注意ください。

■4期生と5期生: 終身会費納入済みです。お振込されないようご注意ください。

■同窓会費納入の種類について

会費は次の2種類がございますので、どちらか選択をお願いいたします。

- ①年會費制(2,000円/年)お支払い方法 5カ年前納のみ・10,000円
- ②終身会費20,000円

■振込期日 平成22年5月31日までにお振込をお願いいたします。

■振込先 銀行名: ゆうちょ銀行
口座番号: 振替口座 00510-3-94730
口座名義: 新潟医療福祉大学同窓会

ご注意

お振込の際は、ゆうちょ銀行窓口で備え付けの払込取扱票をご使用いただき、通信欄には、卒業学科、学籍番号をご記入ください。(改姓等のあった方は、旧姓もご記入ください。)尚、領収書は、銀行が発行する受領証をもって代えさせていただきます。払込手数料はご負担願います。

同窓会サイト(会員情報・住所変更届出)について
<http://nuhw-dosokai.jp/>

住所・勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。また、同窓会に関するご意見・お問合せ・投稿は、E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp まで、お願いいたします。

編集後記 Hennisyu-kouki

今年度も残すところ数週間となりました。皆様はどんな1年間だったでしょうか。同窓会は今年創立5周年という節目の年を迎え、交流会を開催させていただきました。皆様のおかげで大変良い交流会になりました。ありがとうございました。さて、3月16日には6期生が卒業します。それに伴い1期生から6期生まで同窓会会員は総勢約2,200人となり、会員が増えます。同窓会では今後もより活発な活動を皆様にご提供していきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。最後になりましたが、来年度も皆様にとって良い1年間となりますように。

(健康栄養学科卒 1期生 保莉)

新潟医療福祉大学同窓会支援室

- 新潟市北区島見町1398番地
- メールアドレス dosokai@nuhw.ac.jp
- 電話番号 025-257-4620